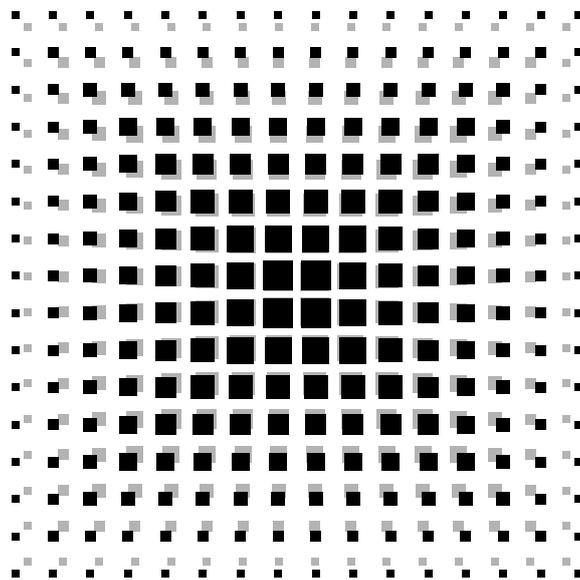
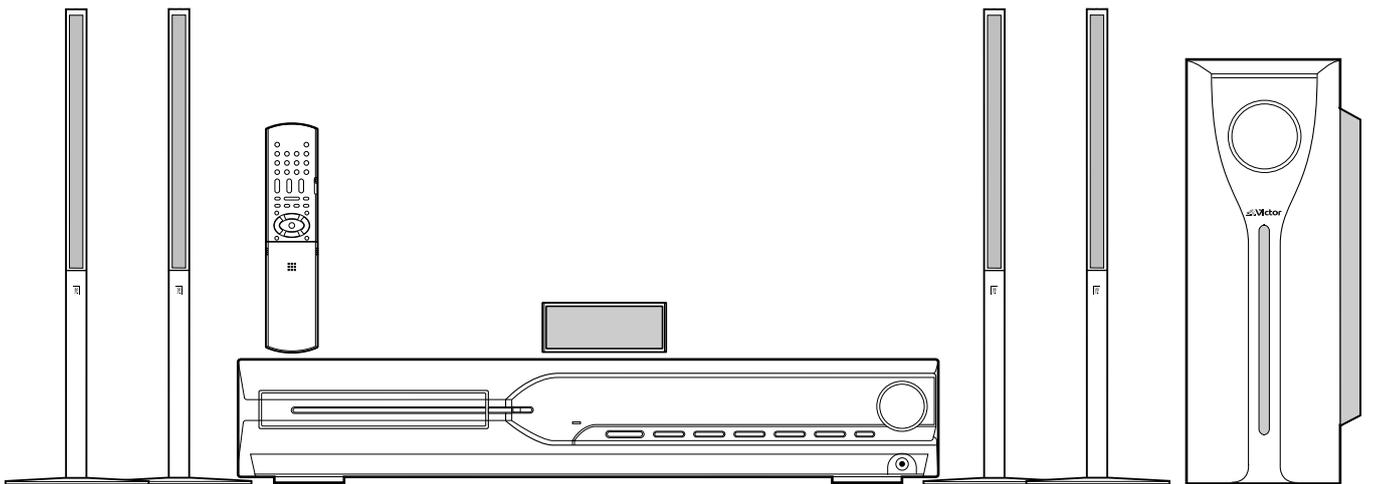
DVD デジタルシアターシステム

型名 **TH-DD7**

DVD Digital Theater System
TH-DD7

システム構成：XV-THDD7
SP-THDD7F
SP-THDD7C
SP-WDD7

AV COMPU LINK
Digital Direct Progressive

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に ***4***〜***6***ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

リージョン番号（ローカル番号）について

本システムでは、リージョン番号表示に「ALL」または「2」が含まれるDVDビデオに限り再生することができます。

再生できるリージョン番号表示の例：

ディスクのジャケットもご覧ください。

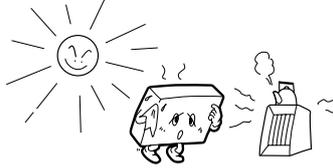
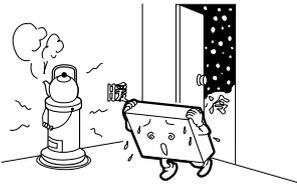
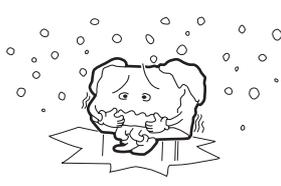
リージョン番号は、国や地域ごとに割り当てられた番号です。

GVT0133-018A

はじめに

本システムの置き場所について

本システムは5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度の環境で使用すると、誤動作したり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・湿気やほこりの多い所

・直射日光が当たる所や暖房器のそば

・寒い所から急に暖かい部屋へ移動したのちしばらくの間

・極端に寒い所

・磁気を発生する所
・振動の激しい所
・OA機器やけい光灯のすぐそば

お知らせ *露がついたら*

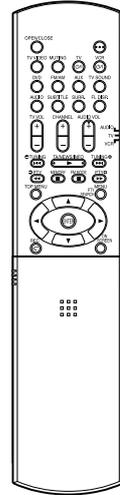
次のような場合、本機のレンズに露（水滴）が付いてDVDビデオやCDなどが正しく再生できないことがあります。
- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき

電源を入れたまま、1～2時間待ってからお使いください。

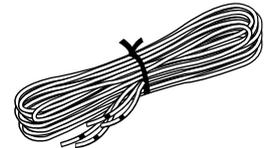
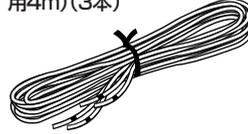
商標と著作権

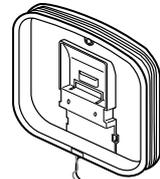
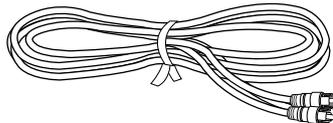
- ディスクを著作権者に無断で複製したり放送、上映、演奏、レンタルすることは、法律により禁止されています。
- DVDロゴは、DVDフォーマットライセンシング株式会社の商標です。
- 本システムはコピープロテクション技術が採用されています。このコピープロテクション技術は、マクロビジョン社やそのほか権利者が米国などで特許等の知的財産権を所有しており、この技術を使用する際にはマクロビジョン社のライセンスが必要となります。マクロビジョン社が認めない限り、家庭をはじめとする限られた範囲での視聴目的以外にはこの技術の使用はできません。また、改造または分解、リバースエンジニアリングは禁止されています。
- お客様が個人的かつ非営利目的でご使用になる場合を除き、MPEG-4ビジュアル規格に準拠して本システムをご使用になることは認められていません。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。

- リモコン（RM-STHDD7）（1個）
- 単3形乾電池（2本）（リモコン動作確認用）
- ねじ①（M4 x 25mm）（12本）
- ねじ②（M5 x 12mm）（4本）
- ワッシャー（4個）

- スピーカーコード（フロントスピーカー、センタースピーカー用4m）（3本）

- スピーカーコード（サラウンドスピーカー用10m）（2本）

- FM簡易型アンテナ（1本）

- AMループアンテナ（1個）

- ビデオコード 長さ約3m（1本）

■ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

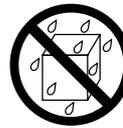
注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔やディスク挿入部の穴などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

一般的指示

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

⚠警告

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本機の上に水の入った容器を置かない。

花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10cm以上離す
- センターユニット後面の冷却ファンをふさがない

置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 湿気やほこりの多い所
- 熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ディスク挿入時に、手を挟まれないようにする。

閉まるときにディスクトレイに手を挟まれ、けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

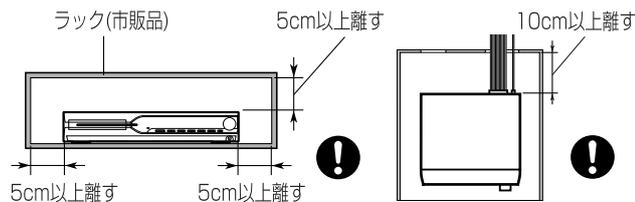
電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災·けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご注意

- 本システムのセンターユニットは、使用状態により本体の温度が上昇することがあります。下図のような放熱空間を確保してください。
- ラックの後面のコード引出し口はできるだけ大きくして、通気を良くしてください。

ディスクについて

本システムで再生できるディスク

本システムで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類とマーク		記録内容	ディスクの大きさ
DVDオーディオ	DVD AUDIO / DVD AUDIO/VIDEO	音楽＋映像	12センチ
DVDビデオ	DVD VIDEO / DVD VIDEO	音楽＋映像	12センチと8センチ
スーパービデオCD/ビデオCD	Video CD / COMPACT disc DIGITAL VIDEO / COMPACT disc SUPER VIDEO	音楽＋映像	12センチと8センチ
オーディオCD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	音楽	12センチと8センチ

次のディスクも再生することができます。

ディスクの種類	記録形式
DVD-R DVD-RW	・DVDビデオフォーマット （ファイナライズ処理されたもの）
CD-R CD-RW	・ビデオCD/スーパービデオCDフォーマット ・オーディオCDフォーマット （ファイナライズ処理されたもの） ・ISO 9660レベル1または2 （ファイナライズ処理されたもの）

ご注意

- DVD-R/-RWやCD-R/RWディスクをお使いのときは、ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。
- CD-RWディスクは、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ディスクにテープやシールなどを張ったり、字を書いたりしないでください。
- ディスクの傷、汚れや反り、またはディスクの特性、記録状態、書込みソフトによっては、再生に時間がかかったり、再生できないことがあります。
- ひび割れ、変形または接着剤などで補修した壊れたディスクや、ハート型や八角形など、特殊形状のディスク（シェイプCDなど）は再生できません。
- 次のディスクは音声のみ再生することができます。
  CD-G（グラフィック）、CD-EXTRA（エクストラ）、
  CD TEXT（テクスト）、およびMIX-MODE CD

お知らせ *DVDビデオやビデオCDについて*

- 本システムは、DVDビデオおよびビデオCD製作者が意図したディスク内容にしたがって再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。
  このようなときは、テレビ画面に「⃠」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。
- DVDビデオの2層ディスクの場合、1層目から2層目に切り換わるとき、音声や映像が乱れることがありますが、これは故障ではありません。
- 本システムのテレビ方式はNTSC方式です。

お知らせ *コピーガード対応CDについて*

- 本システムでは、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
- CDを再生する際には、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

お知らせ *記録形式について*

- 本システムは最大20までのマルチセッションに対応しています。
- 次の記録形式で記録されたディスクは再生できません。
  –VR（ビデオレコーディング）フォーマット
  –パケットライト記録

再生できないディスク

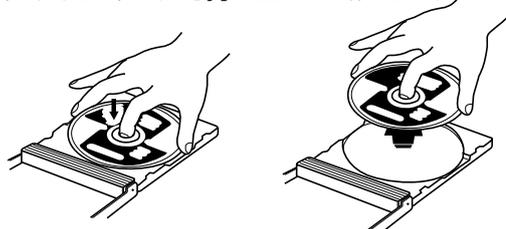
次のディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。

- DVD-ROM
- DVD-RAM
- VRフォーマットで記録したDVD-RW
- CD-ROM
- SACD
- フォトCD

ディスク使用上のご注意・お手入れ

取り扱い時の注意

ディスクを取り扱う際、以下のことに注意してください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押したままディスクを持ち上げてください。

- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（文字の書かれていない面）を汚したり、ラベル面（文字の書かれている面）に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

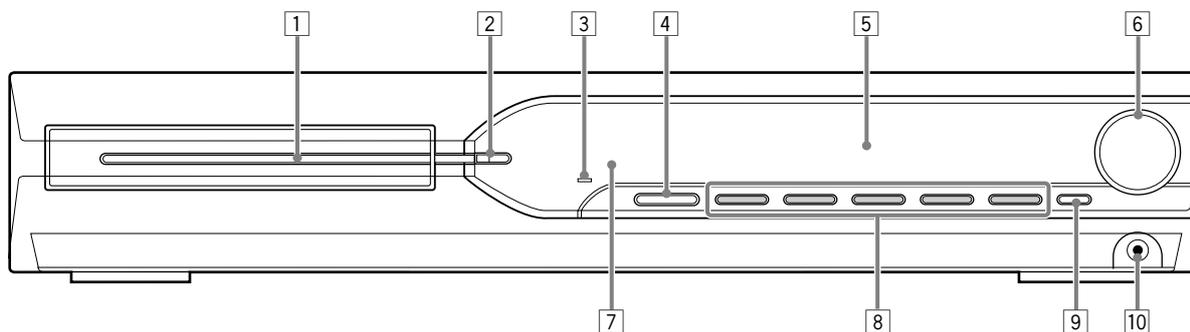
- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

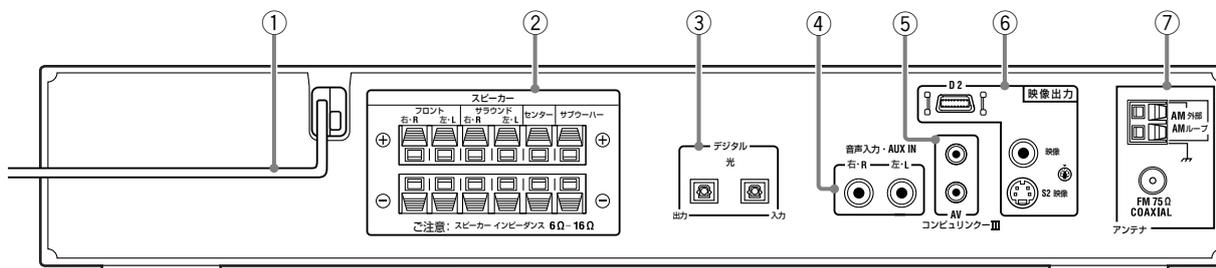
ディスクのクリーニング

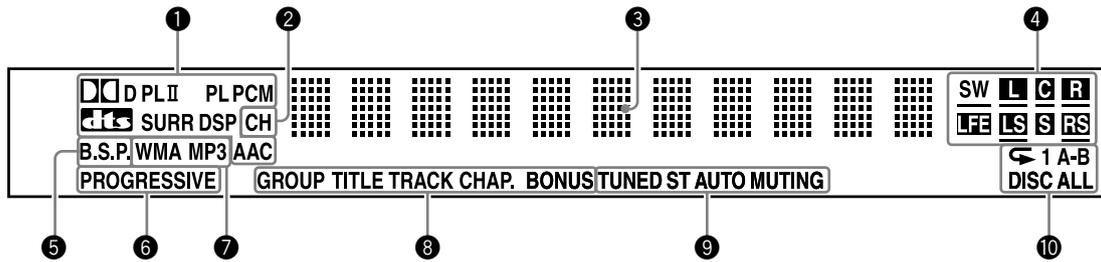
- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外側に向かって軽くふいてください。ディスクの円周方向にはふかないでください。
- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

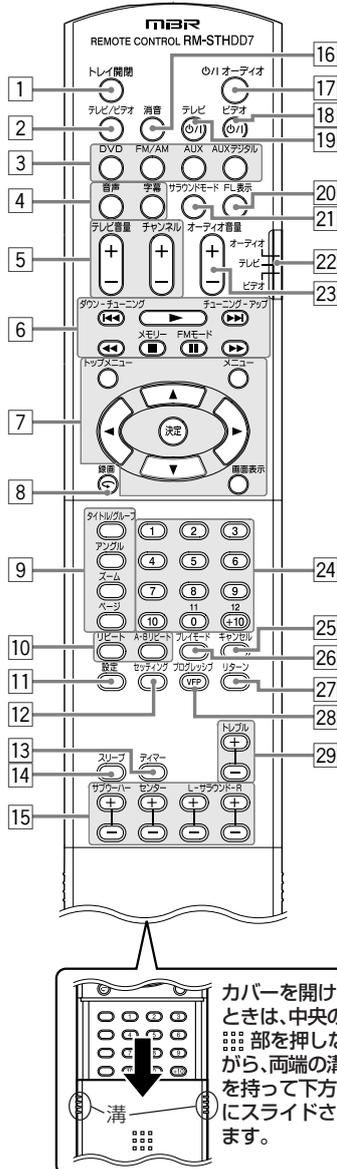
各部の名前 —( )内のページに説明があります。—

センターユニット(XV-THDD7)

前面

1 ディスクトレイ (*19*)
2 ⏏(開/閉)ボタン (*19*)
3 STANDBY(スタンバイ)ランプ (*19*)
4 ⏻/I (電源)ボタン (*19*)
5 表示窓 (*9*)
6 VOLUME(ボリューム)調節つまみ (*19*)
7 リモコン受光部 (*16*)
8 操作ボタン(■(停止)、►(再生)、II、►►I、I◄◄)
9 SOURCE(ソース)ボタン (*19*)
10 ヘッドホン端子 (*19*)

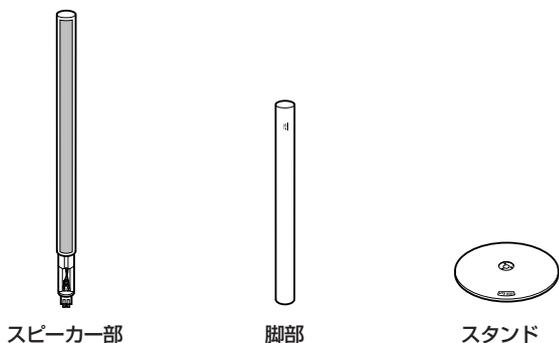
後面

① 電源コード (*15*)
② スピーカー端子(フロント左右、センター、サラウンド左右、サブウーハー) (*13*)
③ 光デジタル端子(入力、出力) (*14*)
④ 音声入力端子(AUX IN) (*14*)
⑤ AVコンピュリンクーⅢ端子 (*35*)
⑥ 映像出力端子(D2、映像、S2映像) (*14*、*16*)
⑦ AM/FMアンテナ端子 (*15*)

表示窓

❶ デジタル音声フォーマット表示/サラウンド表示（***29***）
❷ チャンネル表示（CH）（***28***）
❸ 文字表示部
❹ スピーカー表示（SW、L、C、R、LFE、LS、S、RS）（***13***）
❺ BSP表示（***25***）
❻ プログレッシブ表示（PROGRESSIVE）（***16***）
❼ 音楽ファイル表示（WMA、MP3）
❽ ディスク再生表示（GROUP、TITLE、TRACK、CHAP.、BONUS）
❾ ラジオ音声表示（TUNED、ST、AUTO MUTING）（***28***）
❿ リピート表示（1、A-B、DISC、ALL）（***21***）

リモコン（RM-STHDD7）

1 トレイ開閉ボタン（***18***）
2 テレビ/ビデオデッキ操作ボタン（テレビ/ビデオ）（***17***）
3 ソース選択ボタン（DVD、FM/AM、AUX、AUX デジタル）（***18***）
4 DVD操作ボタン（音声、字幕）（***20***）
5 テレビ操作ボタン（テレビ音量＋/－、チャンネル＋/－）（***17***）
6 ディスク操作ボタン（■、►、II、►►I、I◄◄、►►、◄◄）
ラジオ操作ボタン（チューニングアップ、チューニングダウン、FMモード、メモリー）（***28***）
7 メニュー操作ボタン（トップメニュー、メニュー、画面表示、▲、▼、►、◄、決定）（***22***、***31***）
8 チョット見バックボタン（↺）（***21***）
ビデオデッキ操作ボタン（録画）（***17***）
9 DVD操作ボタン（タイトル/グループ、アングル、ズーム、ページ）（***20***、***21***、***24***、***25***）
10 リピート操作ボタン（リピート、A-Bリピート）（***21***）
11 メニュー操作ボタン（設定）（***31***）
12 セッティングボタン（***30***）
13 ディマーボタン（***18***）
14 スリープボタン（***18***）
15 スピーカー出力ボタン（サブウーハー＋/－、センター＋/－、サラウンドL＋/－、サラウンドR＋/－）（***30***）
16 消音ボタン（***18***）
17 ⏻/I（電源）オーディオボタン（***18***）
18 ビデオデッキ操作ボタン（ビデオ⏻/I）（***17***）
19 テレビ操作ボタン（テレビ⏻/I）（***17***）
20 FL表示ボタン（***20***）
21 サラウンドモードボタン（***29***）
22 リモコンモード切換スイッチ（***17***、***18***、***20***）
23 オーディオ音量＋/－ボタン（***18***）
24 数字ボタン（1～10、0、＋10）
25 キャンセルボタン（***23***、***24***）
26 プレイモードボタン（***24***）
27 リターンボタン
28 プログレッシブボタン（***16***）
VFPボタン（***25***）
29 トレブル＋/－ボタン（***30***）

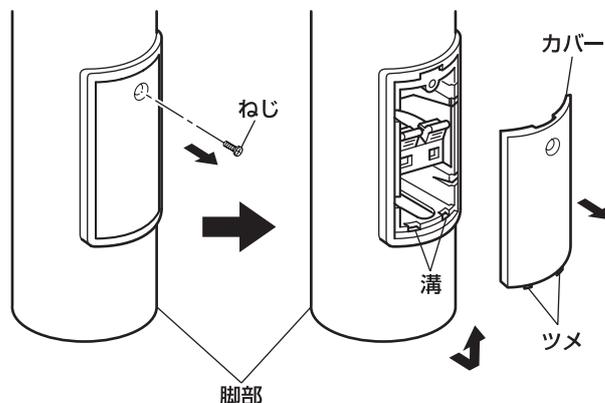
スピーカーを接続する

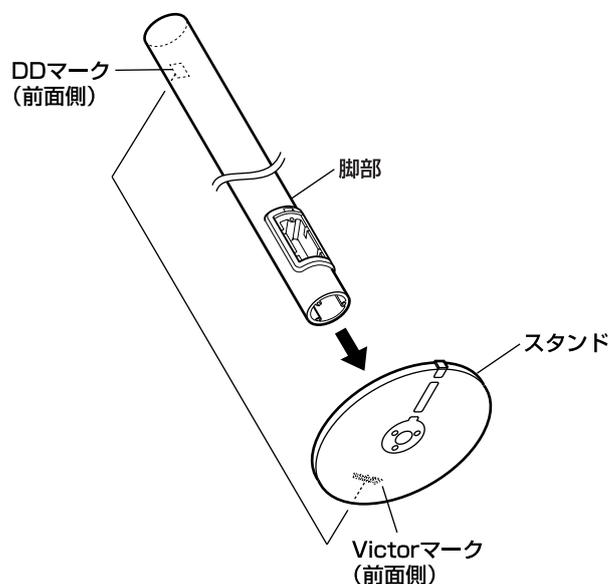
スピーカーを組み立てる

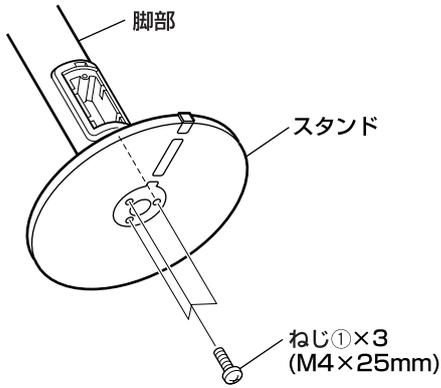
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは、3つのパーツに分かれています。スピーカーを接続する前に組み立てます。
・プラスドライバーを用意してください。

ご注意

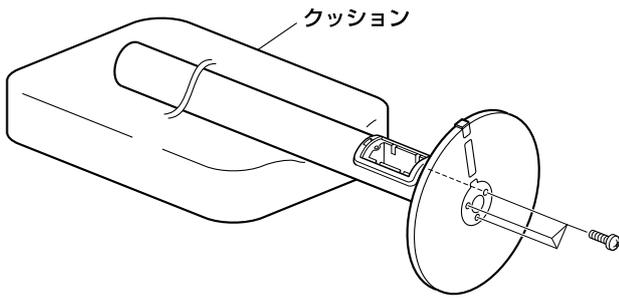
・組み立ては十分広いところで行ってください。
・スピーカーなどに傷がつかないように、床に厚手の布などを引いて作業してください。
・スピーカー部のスピーカーユニットを強くつかまないようにしてください。
・スタンドを足の上に落とさないようにしてください。けがをする恐れがあります。
・スタンドなどを床に落とさないようにしてください。床に傷がつくことがあります。
・スピーカー部だけでの使用はできません。組み立てた状態で使用してください。
・組み立ての際、スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えると、音場感や音質がそこなわれますので、ご注意ください。
接続したあと、コードが確実に接続されていることを確認してください。

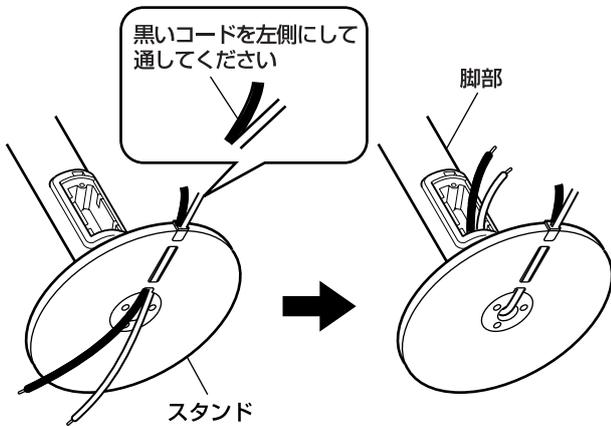
1 脚部からカバーをはずす

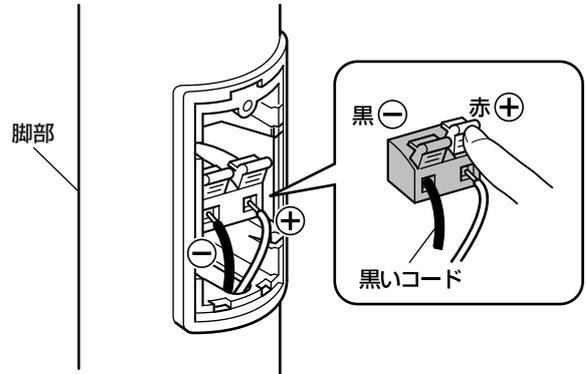
ねじをはずしてから、溝からツメをはずしカバーを取り去ります。
・はずしたカバーとねじは、手順***6***で使います。

2 脚部とスタンドを組み合わせる

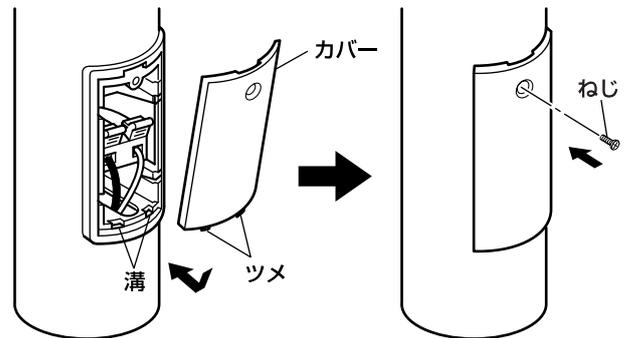
・脚部の (DDマーク)とスタンドの Victor (Victorマーク)が、同じ向きになるように組み合わせます。
・脚部とスタンドのねじ穴の位置が合っていることを確認してください。

3 脚部とスタンドを付属のねじ①3本で固定する

・ねじ①3本を仮締めします。その後、しっかりと締めつけてください。

お知らせ *組み立てのときは*

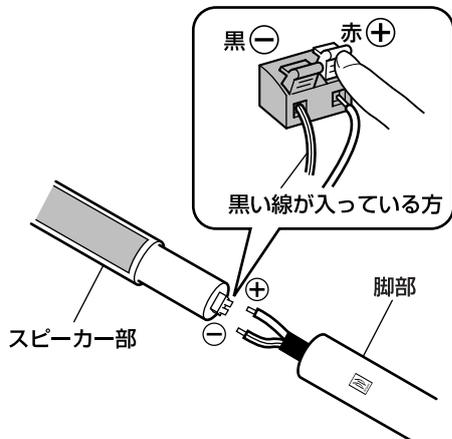
脚部とスタンドを組み立てるとき、クッションなどを用いて組み立ててください。
脚部を水平にすると、ねじが止め易くなります。

4 スピーカーコードをスタンドの下から脚部へ通す

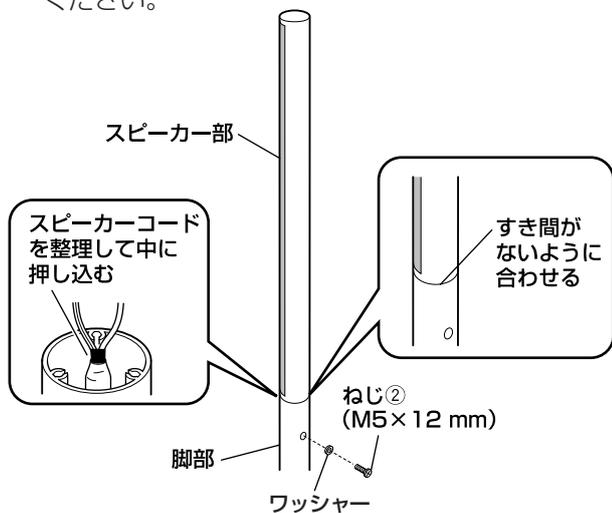
・付属のスピーカーコードをご使用ください。
・スピーカーコードの片側にはタグがついています。タグのついていない方を脚部に通してください。

5 スピーカーコードの先端を、脚部の端子レバーを押したまま穴に差し込む

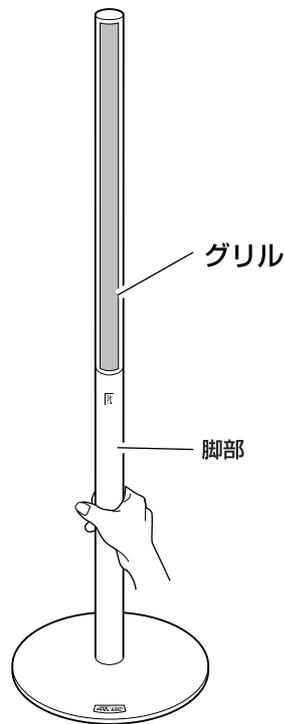
・芯線は奥までしっかり差し込んでください。
・スピーカーコードは、黒いコードを⊖側に接続してください。

6 端子部へカバーを取り付ける

・手順***1***ではずしたカバーとねじを使います。
・ツメを溝に合わせてからねじで固定します。

次のページに続きます。

7 スピーカーコードの先端を、スピーカー部の端子レバーを押したまま穴に差し込む

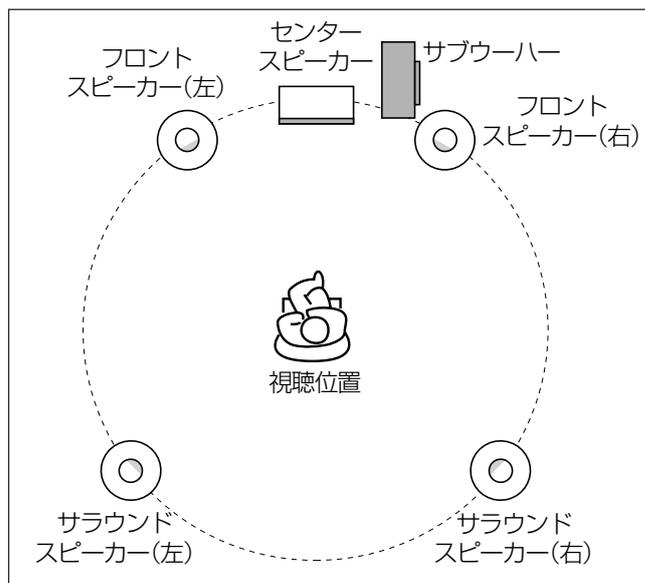
・芯線は奥までしっかり差し込んでください。
・スピーカーコードは、黒い線が入っている方を⊖側に接続してください。

8 スピーカー部を脚部に差し込み、付属のねじ②で固定する

・スピーカー部を脚部に差し込むときに、スピーカーコードを整理して、脚部の中に押し込みます。スピーカーコードをはさみ込まないように注意してください。

■ スピーカーの取り扱いについて

スピーカーを移動させるときは、必ず脚部を持って移動させてください。グリルを強くつかむと、スピーカーユニットを破損するおそれがあります。

ご注意

スピーカーコードを引っ張って、スピーカーを移動させたりしないでください。スピーカーが倒れ破損する原因となります。

スピーカーを配置する

本システムのサラウンド音声を効果的にお楽しみいただくために、下の配置例を参考にしてスピーカーを配置してください。

スピーカーを配置する（つづき）

■ 配置のポイント

- フロントスピーカー（左右）とサラウンドスピーカー（左右）には、区別はありません。
- 全てのスピーカーは、視聴位置から等距離に配置するのが理想的です。等距離に配置できないときは、「初期設定メニュー」の「ディスタンス」で調節してください（➡ 32ページ）。
- センタースピーカーはテレビ画面の近くに配置します。テレビの上に置くと、落下によってけがをしたり、スピーカーが破損するおそれがあります。
- サラウンドスピーカーは、視聴位置のやや後方に視聴位置に向けて設置します。
- サブウーハーはテレビの右側に配置してください。左側に配置すると、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。

お知らせ *スピーカーの配置について*

- サラウンドの効果はスピーカーの向きや高さによっても変わります。実際の音声を聞きながら調節してください。
- 本システムの各スピーカーは防磁設計（JEITA仕様）ですが、配置によってはテレビ画面に色ムラが生じることがあります。次の点に注意して配置してください。
  1. テレビの近くに配置するときは、必ずテレビの主電源を「切」にしてください。配置後は、30分程度待ってからテレビの主電源を「入」にしてください。
  2. テレビの種類によって万一、色ムラが生じたときは、スピーカーをテレビから10cm以上離して設置してください。

ご注意

スピーカーは平らな場所に設置してください。

■ センターユニット表示窓のスピーカー表示について

スピーカー表示には、入力信号と使用中のスピーカーが表示されます。

SW	：サブウーハー（ヘッドホン使用中以外は常に点灯）	LFE	：LFE信号入力時に点灯
L	：左フロントスピーカー信号入力時に点灯	LS	：左サラウンドスピーカー信号入力時に点灯
C	：センタースピーカー信号入力時に点灯	S	：モノラルサラウンド信号入力時に点灯
R	：右フロントスピーカー信号入力時に点灯	RS	：右サラウンドスピーカー信号入力時に点灯

L、**C**、**R**、**LS**、**RS**の下にある線が点灯するときは、そのスピーカーから音声が出ています。

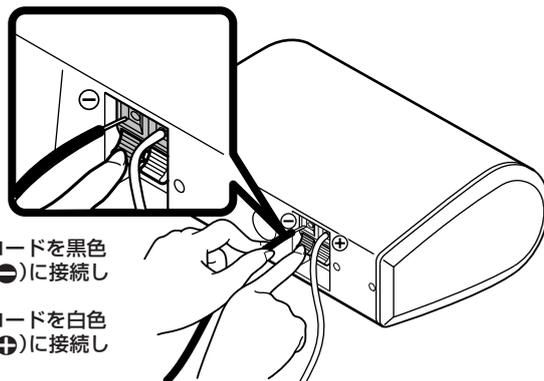
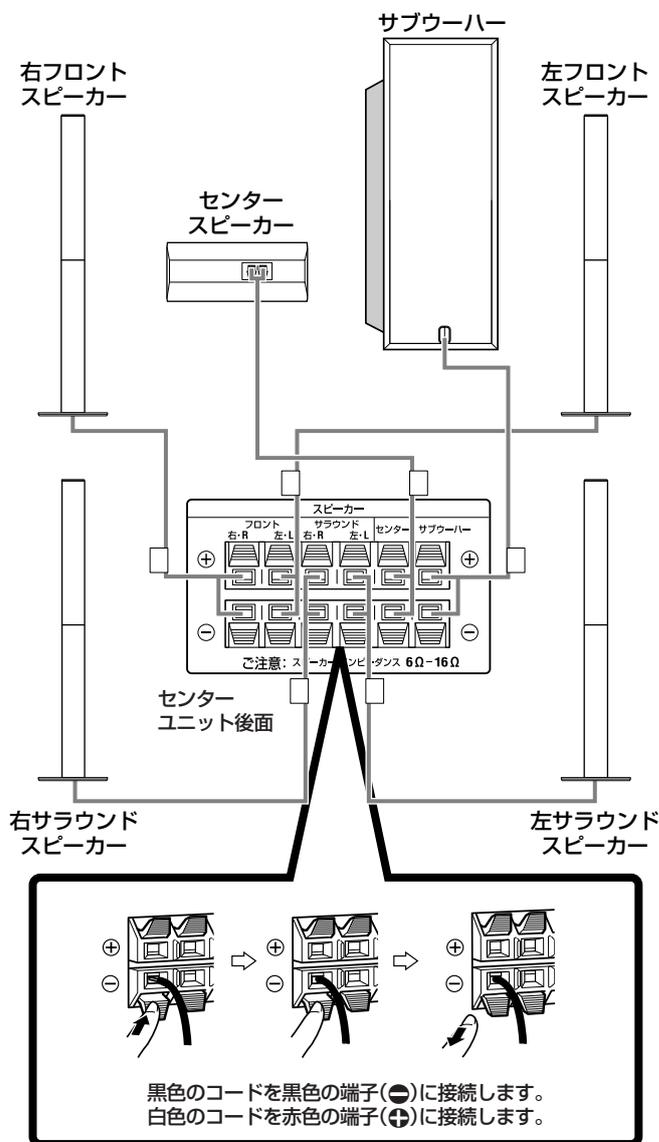
本システムでは、サラウンド（➡ 29ページ）を使うことで、ラジオ以外のソース（音源）のとき、接続したすべてのスピーカーからの音声をお楽しみいただけます。

スピーカーを接続する

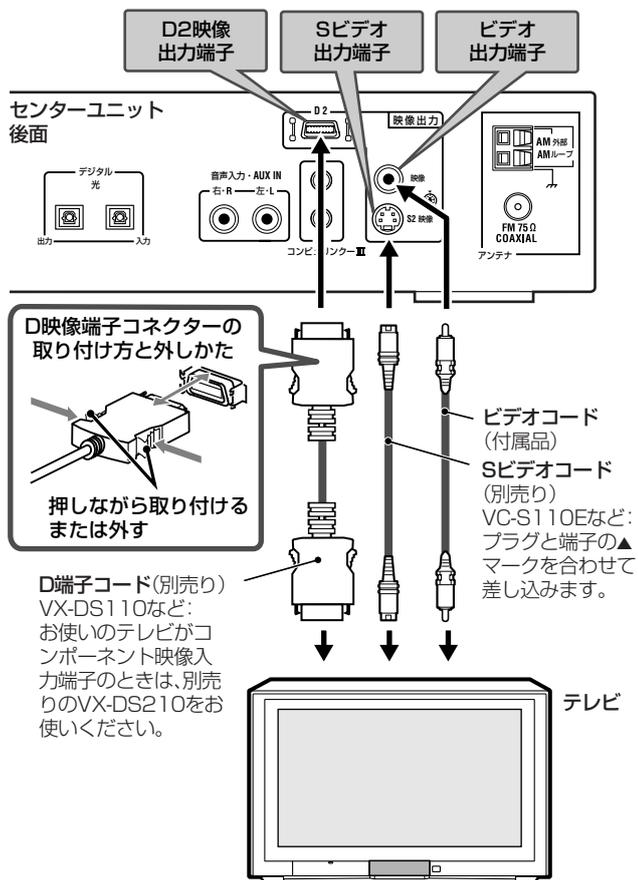
各スピーカーとサブウーハーをセンターユニットに接続します。

- スピーカーコードの接続を間違えると、ステレオ感や音質が損なわれます。
- スピーカー端子の⊕と⊖をショートさせないでください。故障の原因となります。
- 付属のスピーカーと他のスピーカーとを一緒に接続しないでください。負荷インピーダンスが変わり、故障の原因となります。
- 複数のコードを１つの端子につながないでください。

スピーカーを接続する（つづき）

■ センタースピーカーにスピーカーコードを接続する

■ センターユニットに各スピーカーコードを接続する

テレビを接続する

センターユニットの映像出力端子またはD2映像出力端子とテレビを接続します。

- 画質は次の順序でよくなります。
  ビデオコード ＜ Sビデオコード ＜ D端子コード
- テレビの取扱説明書もご覧ください。
- プログレッシブ映像(➡ 16ページ)をお楽しみいただくには、D2映像出力端子での接続が必要です。

お知らせ テレビの接続について

- テレビの代わりにモニターやプロジェクターにも接続できます。
- センターユニットの映像出力は直接テレビに接続してください。ビデオデッキを経由してつないだり、ビデオデッキ一体型テレビとつないだりすると、コピー防止システムのため再生中に映像が乱れることがあります。

お知らせ S2映像端子について

本システムのS映像端子は、ビデオカメラなどのワイドモードや、ワイドテレビなどのワイド画面判別(スクイーズ)信号にも対応するS2映像端子です。

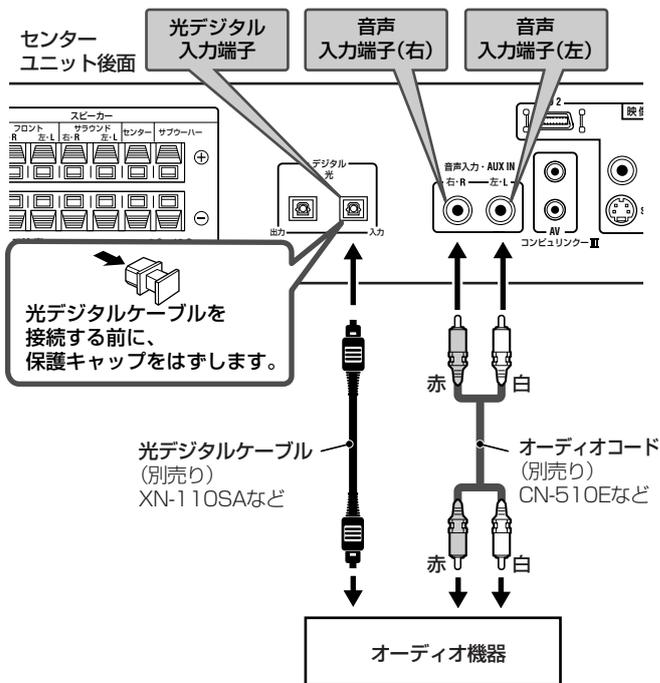
お知らせ D2映像端子について

- ハイビジョンの端子とは接続しないでください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- お使いのテレビによっては、画面サイズの自動切り換えなどの一部の機能が正しく働かないことがあります。
- プログレッシブ映像をお楽しみいただくには、お使いのテレビもプログレッシブ映像入力に対応している必要があります。お使いのテレビのD映像端子が「D1」端子のときはプログレッシブ映像はお楽しみいただけません。

オーディオ機器を接続する

オーディオ機器の音声を本システムで聞く

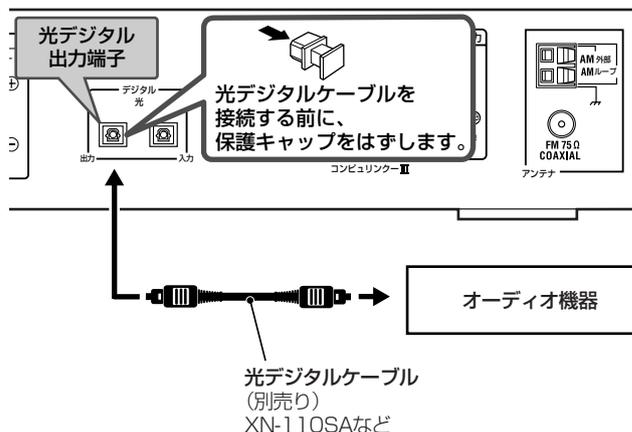
センターユニットの音声入力端子または光デジタル入力端子とオーディオ機器を接続します。

- テレビ、ビデオデッキ、BSデジタルチューナーなどのビデオ機器の音声を本システムで聞くこともできます。
- 接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

お知らせ ビデオ機器の音声接続について

ビデオデッキなどビデオ機器の映像を見るには、ビデオ機器の映像出力端子とテレビの映像出力端子を直接つないでください。音声は本システムで選び、映像はテレビで選びます。

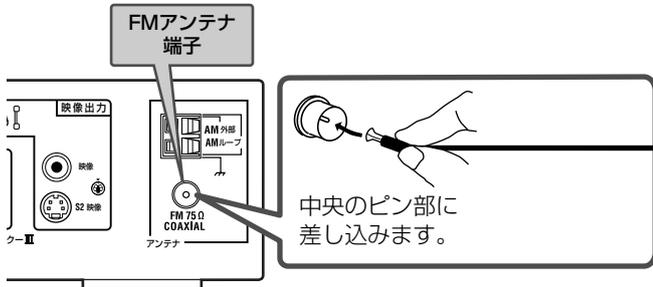
本システムの音声をデジタル録音する

センターユニットの光デジタル出力端子とオーディオ機器を接続します。

- 光デジタル出力端子からの音声は、「初期設定メニュー」の「音声」で選ぶことができます(➡ 32ページ)。
- 本システムの光デジタル入力端子からの音声は、すべてリニアPCM音声に変換されて出力されます。

ラジオのアンテナを接続する

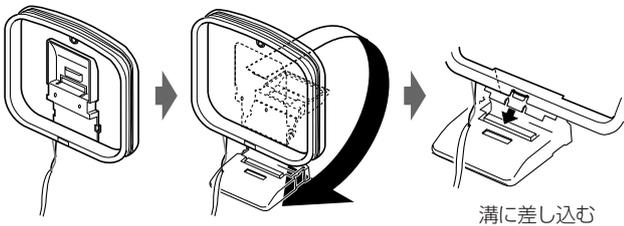
FMアンテナを接続する

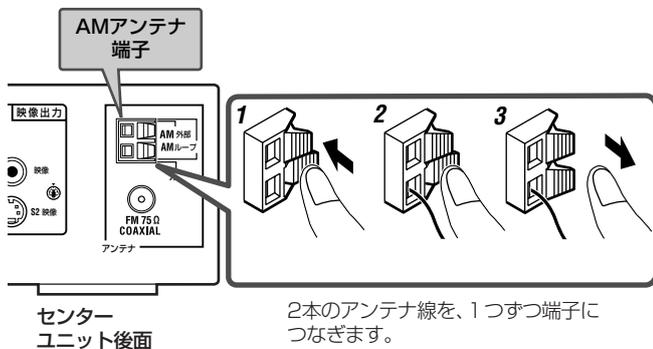
■ FM簡易型アンテナ(付属品)を接続する

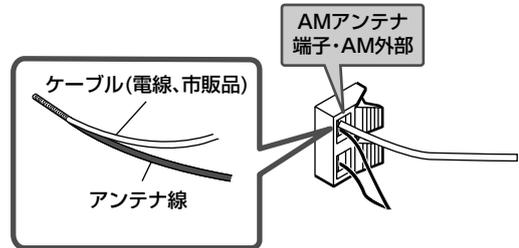
簡易型アンテナは、つないだ後でピンと伸ばし放送局の受信状態が最も良い位置にテープなどで固定します。

■ FM屋外アンテナやマンションの壁などの共聴アンテナ端子に接続する

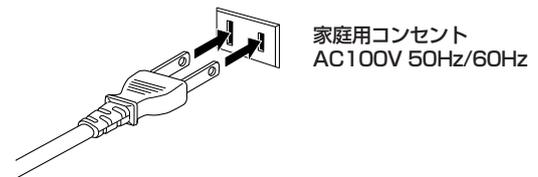
同軸ケーブル(市販)とアンテナコネクター(別売り)を準備します。

AMアンテナを接続する

■ AMループアンテナ(付属品)を組み立てる

■ アンテナ線をセンターユニット後面のAMアンテナ端子につなぐ

接続が終わったら、AMループアンテナの向きを変えて、放送局の受信状態が最も良い位置を探します。

■ AMループアンテナでうまく受信できないとき

ケーブル(電線)をAMアンテナ端子の「AM外部」側に接続します。このとき、AMループアンテナも接続したままにしておいてください。
ケーブルは、窓際や屋外にできるだけ高く水平に張ると効果的です。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、センターユニットの電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、センターユニットのSTANDBYランプが点灯します。

ご注意

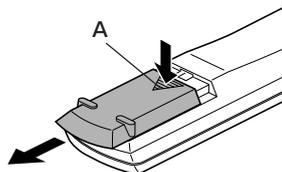
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードに触れないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

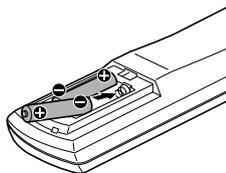
センターユニットとリモコンの設定

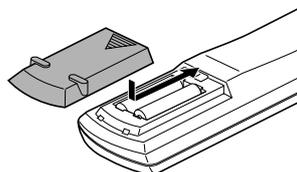
リモコンを準備する

単3形の乾電池を入れます。

1 裏ブタをはずす

A部を押さえながら、矢印の方向へ引き下げます。

2 単3形乾電池を2本入れる

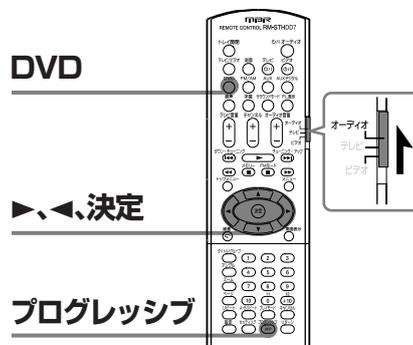
リモコン内部の表示に合わせ、極性(⊕、⊖)を正しく入れます。

3 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

お知らせ *リモコンについて*

- リモコンの先端をセンターユニットのリモコン受光部(➡ *8*ページ)に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物などがあると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、センターユニットに近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。
- 指定以外の電池(充電式電池など)は使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

スキャンモードを設定する

プログレッシブ対応テレビと本システムをD映像端子で接続したときは、プログレッシブ映像でお楽しみいただけます。

- 接続について詳しくは、「テレビを接続する」(➡ *14*ページ)をご覧ください。
- お買い上げ時のスキャンモードは「インターレース」です。

リモコンで操作します。

1 DVDを押す

センターユニットの電源が「入」になり、表示窓に「DVD」と表示されます。

- ディスクの再生が始まったときは、■(停止)を押してください。

2 プログレッシブを2秒以上押す

3 ►、◄でスキャンモードを選ぶ

- **INTERLACE**(インターレース)：TVとの接続がSビデオまたはビデオ端子のとき選びます。
- **PROGRESSIVE**(プログレッシブ)：プログレッシブ対応TVとの接続がD2映像端子のとき選びます。センターユニットの表示窓に**PROGRESSIVE**表示が点灯します。

4 決定を押す

インターレースに戻すには

手順*3*で「INTERLACE」を選びます。

表示窓の**PROGRESSIVE**表示が消灯します。

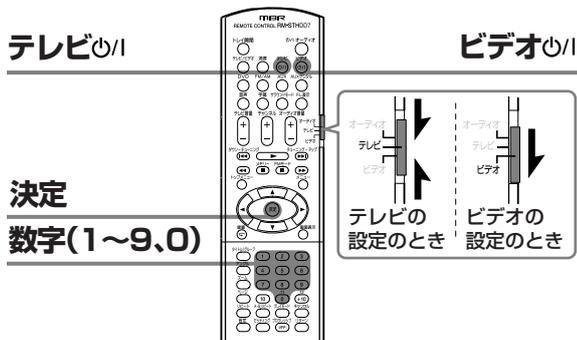
お知らせ *プログレッシブスキャンについて*

- ビクター製以外のプログレッシブ対応テレビの中には、本システムのプログレッシブスキャンに適合しないものがあります。テレビの映像が不自然に映るときは、スキャンモードを「インターレース」にしてください。
- **プログレッシブ映像出力の著作権保護信号について**
  本機のプログレッシブ映像出力(525p)には著作権保護信号が付加されていることがあります。この信号に対応していないテレビ、モニターでは映像が乱れることがあります。このようなときは、スキャンモードを「インターレース」にしてお使いください。
  ビクター製のテレビでは、HD-32LS3やAV-32AD3などが著作権保護信号に対応しています。詳しくは「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。

リモコンで他の機器を操作する

本システムのリモコンを使って、ビクター製や他メーカーのテレビまたはビデオデッキを操作することができます。

メーカーコードを設定する

他メーカーの機器を操作するときは、メーカーに対応したコードを設定する必要があります。
ビクター製のテレビとビデオデッキは、お買い上げ時のままで操作することができます。

リモコンで操作します。

1 リモコンモード切換スイッチを「テレビ」または「ビデオ」に合わせる

・テレビのメーカーコードを設定するとき➡「テレビ」
・ビデオのメーカーコードを設定するとき➡「ビデオ」

2 テレビ⏻/Iまたはビデオ⏻/Iを押し続ける

・手順**4**でメーカーコードの入力が終わるまで押し続けます。
・テレビのメーカーコードを設定するとき➡「テレビ⏻/I」
・ビデオのメーカーコードを設定するとき➡「ビデオ⏻/I」

3 決定を押す

4 数字ボタン(1〜9、0)でメーカーコード番号を入力する

例：松下「24」のとき
数字ボタン(1〜9、0)を「2」➡「4」と押します。
・テレビの設定をするとき➡「メーカーコード表(テレビ)」
・ビデオの設定をするとき➡「メーカーコード表(ビデオ)」

メーカーコード表(テレビ)

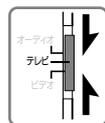
メーカー	コード番号
ビクター	01〜03
アイワ	28、29
NEC	15
コルチナ	31〜34
サンヨー	04〜06
シャープ	07、08
ソニー	11〜13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19〜22
松下	23〜26
三菱	27

メーカーコード表(ビデオ)

メーカー	コード番号
ビクター	01〜03
アイワ	30〜34
NEC	16〜19
コルチナ	36
サンヨー	04〜07
シャープ	08、09
ソニー	11〜13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24〜27
三菱	28、29

手順**2**で押した、ボタンを離します。
これでメーカーコードの設定は終わりです。

テレビを操作する

次のボタンを使ってテレビを操作することができます。
リモコンはテレビに向けてお使いください。

リモコンモード切換スイッチを「テレビ」に合わせます。

操作ができないときは、もう一度メーカーコードを設定し直してください。
・複数のコード番号があるメーカーについては、別の番号も入力してみてください。

ビデオデッキを操作する

次のボタンを使ってビデオデッキを操作することができます。
リモコンはビデオデッキに向けてお使いください。

リモコンモード切換スイッチを「ビデオ」に合わせます。

操作ができないときは、もう一度メーカーコードを設定し直してください。
・複数のコード番号があるメーカーについては、別の番号も入力してみてください。
・本システムのリモコンで操作できるビクター製のビデオデッキは、リモコンコードが「A」に設定されているものに限ります。

リモコンから操作する

センターユニットの電源を「入/切」します。

ディスクトレイを開閉します。
ディスクは、再生したい面を下にして溝に沿って置きます。
- 本システムの電源を「入」にすることもできます。

ソース(音源)を選びます。
- ディスクを再生するとき➡DVD
- ラジオを聞くとき ➡FM/AM
- 外部機器をアナログ音声で聞くとき ➡AUX
- 外部機器をデジタル音声で聞くとき ➡AUXデジタル

お知らせ *ソース選択ボタンについて*
- 本システムの電源を「入」にすることもできます。
- FM/AMボタンを押すと、ラジオのバンドが「FM」⇔「AM」と切り換わります。

一時的に音を消します。
もう一度押すと元の音量に戻ります。

音量を調節します。
音量は0(MIN)〜70(MAX)の範囲で調節できます。

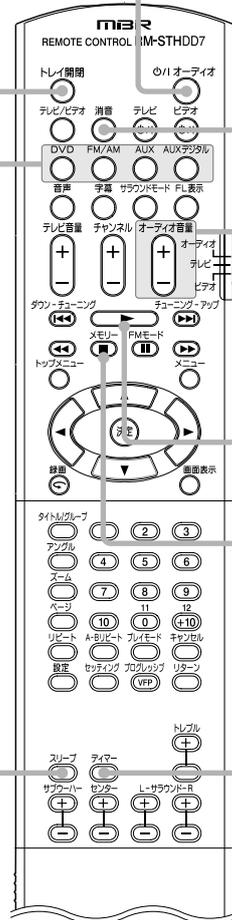
ディスクの再生を始めます。

再生を止めます。

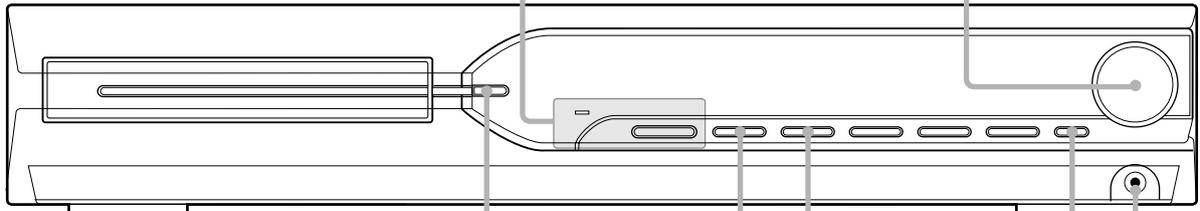
おやすみタイマーを設定します。
設定した時間が経過するとセンターユニットの電源が「切」になります。
ボタン押すごとに、設定時間が変わります。

表示窓の明るさを調節します。
ボタン押すごとに、明るさが変わります。

お知らせ *タイマーを解除するには*

タイマーを途中で解除するときは「OFF」を選びます。

センターユニットから操作する

電源を「入/切」します。
電源を「切」にすると、STANDBYランプが点灯します。

音量を調節します。
音量は0(MIN)~70(MAX)の範囲で調節できます。
右に回すと音量が大きくなります。

ディスクトレイを開閉します。
ディスクは、再生したい面を下にして溝に沿って置きます。

お知らせ *ディスクトレイについて*

- 8cmディスクは、内側の溝に合わせて置きます。
- 本システムの電源を「入」にすることもできます。
- 本システムの電源が「切」のとき、❚❚を押しながら▲(開閉)を押すと、「LOCKED」と表示され、ディスクトレイを開かないようにすることができます(チャイルドロック)。
  元に戻すには、もう一度同じ操作をします。

再生を止めます。

ディスクの再生を始めます。
- 本システムの電源を「入」にすることもできます。

ヘッドホンで聞くとき、ここにプラグを差し込みます。
- プラグを抜き差しするときは、音量を小さくしておいてください。

お知らせ *サラウンドの使用中は*

- サラウンドは一時的に「切」になります。マルチチャンネル音声の再生中は、すべてのチャンネルがダウンミックスされた2チャンネル音声をヘッドホンで聞くことができます。
- DVDオーディオでは、センターユニットの表示窓に「L R ONLY」と表示されることがあります。これは、ダウンミックスが禁止されたマルチチャンネル音声であることを示しています。このとき、ヘッドホンでは、フロントスピーカーチャンネルの音声のみが聞こえます。

ソース(音源)を選びます。
ボタンを押すごとに、ソース(音源)が切り換わり、表示窓に表示されます。

DVDプレーヤーの簡単操作

DVDプレーヤーの操作の中には、ディスクの種類によっては操作ができないものもあります。
本取扱説明書では操作ごとに、次のようなアイコンを使って、操作ができるディスクをお知らせします。

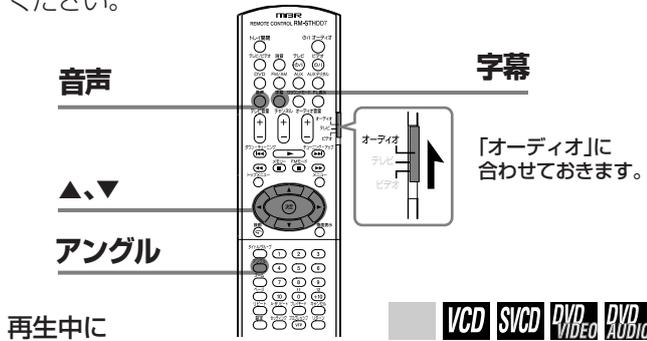
スーパービデオCD
ビデオCD
CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO
DVDビデオ
DVDオーディオ

VCD PBC：ビデオCDでPBC機能が必要なとき
SVCD PBC：スーパービデオCDでPBC機能が必要なとき

MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ファイルの再生については、**26**、**27**ページをご覧ください。

音声・字幕・アングルを選ぶ

複数の音声、字幕、アングルが収録されているディスクを再生しているときに操作します。収録されている音声、字幕、アングルについてはディスクのジャケットなどで確認してください。

再生中に　VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

音声、字幕またはアングルを押す

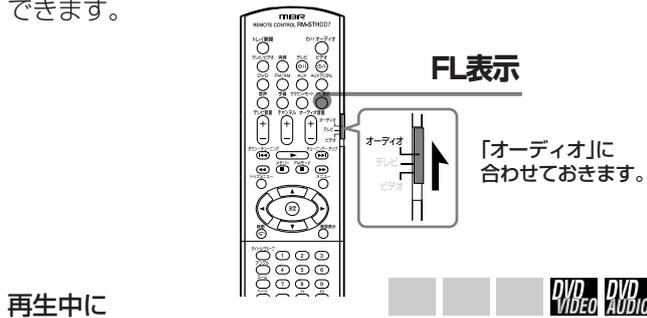
- **音声**または**アングル**を押すごとに音声/アングルがそれぞれ切り換わります。
- **字幕**を押すごとに字幕が表示されたり消えたりします。他の字幕を選ぶときは、▲、▼で選びます。

お知らせ

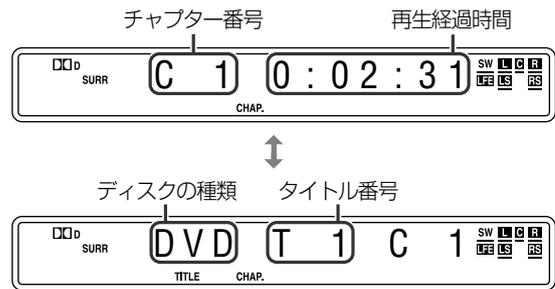
- SVCDには、最大4つの字幕を収録することができます。収録数に関わらず、▲、▼で4つの字幕を切り換えられるように見えますが、収録数が少ないときは字幕が切り換わらない場合もあります。

再生中のタイトル/グループを確認する

ディスクの再生中にタイトルやグループを確認することができます。

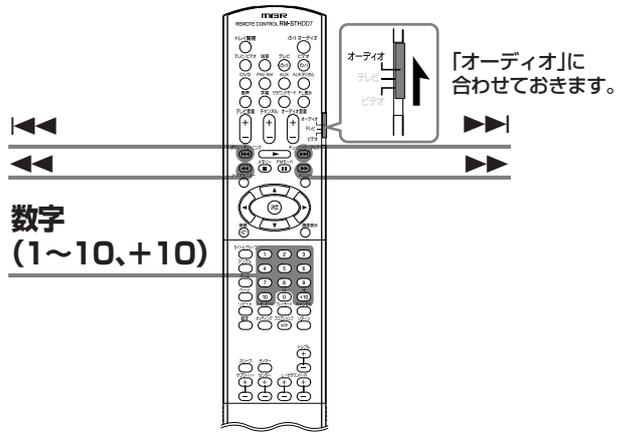
再生中に　DVD VIDEO DVD AUDIO

FL表示を押す

- ボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。

例：DVDビデオのとき

- DVDオーディオ（DVDA）のときは、グループ番号（G）が確認できます。

見たい・聞きたい場所を探す

トラック/チャプターを選ぶ

再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

►►|または|◄◄をくり返し押す

►►|：次のトラック/チャプターの頭に移動します。
|◄◄：前または今のトラック/チャプターの頭に移動します。

リモコンの**数字**ボタン（1〜10、＋10）でもトラック/チャプターを選ぶことができます。

CD：停止中または再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO
VCD/SVCD：停止中またはPBC機能なしで再生中に

数字ボタン（1〜10、＋10）を押す

トラック5を選ぶときは、「**5**」を押します。
トラック12を選ぶときは、「**+10**」➡「**2**」を押します。
トラック25を選ぶときは、「**+10**」を2回押して、「**5**」を押します。

早送り/早戻し再生をする

再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

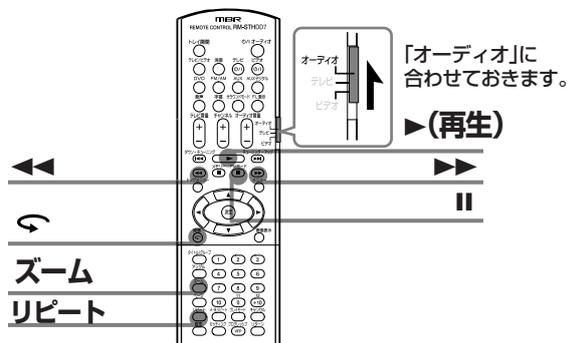
►►または◄◄を押す

TV画面に再生の速さが表示されます。
- ボタンを押すごとに、早戻し/早送り再生の速さが切り換わります。
- センターユニットでは、►►|または|◄◄を押し続けると早戻し/早送り再生の速さが切り換わります。

通常の再生に戻すには
►(再生)を押します。

いろいろな再生をする

一時停止/コマ送りをする

再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

IIを押す

再生が一時停止します。
・ボタンを押すごとに、画面が少しずつ進みます(コマ送り)。
・CDでは、コマ送りはできません。

通常の再生に戻すには
►(再生)を押します。

スロー再生をする

・DVDビデオまたはDVDオーディオのときは逆転スロー再生もできます。

一時停止中に　VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

►►または◄◄を押す

スロー再生または逆転スロー再生(DVDビデオまたはDVDオーディオのみ)が始まります。
・ボタンを押すごとに、スロー再生の速さが切り換わります。

通常の再生に戻すには
►(再生)を押します。

画面を拡大する

再生中の画面を拡大することができます。拡大する部分を選ぶこともできます。
・DVDオーディオの静止画再生中は、この機能は働きません。

再生中に　VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

ズームを押す

・ボタンを押すごとに、倍率が切り換わります。
・▲、▼、►、◄で拡大したい部分を選ぶことができます。

通常の再生に戻すには
ズームをくり返し押して「OFF」と表示させます。

今見たシーンをもう一度見る(チョット見バック)

再生中に　DVD VIDEO

↶を押す

約10秒前に戻ってから再生が始まります。

くり返し再生をする

・VCD/SVCDをPBC機能で再生中は、A-Bリピート(➡ 23ページ)のみ再生できます。

再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

リピートを押す

TV画面とセンターユニットの表示窓にリピート再生のモードが表示されます。
・ボタンを押すごとに、リピート再生のモードが次のように切り換わります。

表示窓	TV画面	リピートモード
↻	↻GROUP REPEAT GROUP	DVDオーディオの現在のグループをくり返す
	↻TITLE	DVDビデオの現在のタイトルをくり返す
↻ ALL	↻ALL REPEAT ALL	CD/VCD/SVCDの全トラックをくり返す
↻ 1	↻TRACK　↻ STEP REPEAT TRACK、REPEAT STEP	DVDオーディオ/CD/VCD/SVCDの現在のトラックをくり返す
	↻CHAP　↻ STEP REPEAT STEP	DVDビデオの現在のチャプターをくり返す
表示なし	↻OFF	リピートモード解除

通常の再生に戻すには
リピートを押して「OFF」を表示させます。

リジューム再生をする

本システムは、DVDの再生を■で止めると、その位置を記憶し、そこから続きを再生することができます(リジューム再生)。

VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

表示窓に「RESUME」と表示されたとき

►(再生)を押す

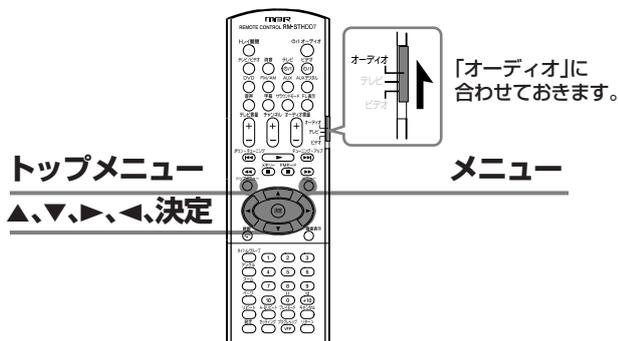
続きから再生が始まります。

はじめから再生するときは
もう一度■を押してから►(再生)を押します。

お知らせ *リジューム機能について*
・ディスクトレイを開けるとリジューム再生は働かなくなります。
・ディスクによっては、リジューム機能が働かないものもあります。

DVDプレーヤーのメニュー操作

ディスクのメニューを使う

DVD/VCD/SVCDでは、再生を始めるとメニュー画面が表示されることがあります。

ディスクのメニューを操作する

メニュー表示中に　VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 ▲、▼、►、◄でメニュー項目を選ぶ

- メニュー項目は、ディスクによって異なります。
- VCD/SVCDのメニューでは、**数字**ボタン(1～9、0)や►►I、I◄◄でメニュー項目を選ぶものもあります。

2 決定を押す

ディスクのメニューを表示させる

メニューを持つディスクの再生中にメニューを表示させることができます。

再生中または停止中に　VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

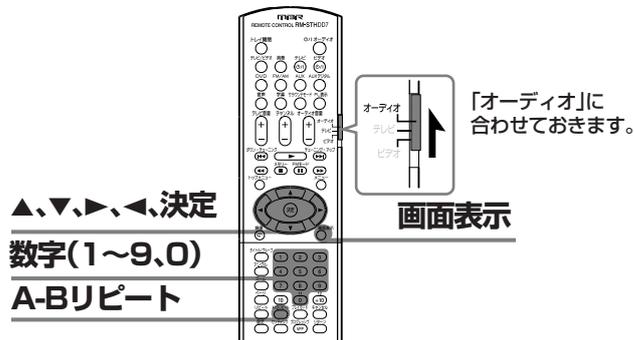
トップメニューまたはメニューを押す

TV画面に「MENU」と表示され、メニュー画面が表示されます。

お知らせ *VCD/SVCDのメニューについて*

VCD/SVCDのメニューは、PBC(プレイバックコントロール)機能のひとつです。PBC機能を使って再生すると、トラックを選んだり、くり返し再生などができなくなります。
PBC機能を使わないで再生するときは、停止中に**数字**ボタンを押してトラックを指定し、再生を始めてください。

オンスクリーンバーを使う

オンスクリーンバーを使って、ディスクの情報を見たり、ディスクを操作することができます。

オンスクリーンバーを表示させる

停止中または再生中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

画面表示を押す

- もう一度押すとメニュー項目が表示されます。
- オンスクリーンバーの表示内容は、ディスクの種類によって異なります。

例：DVDビデオのとき

ディスクの種類	DVD-VIDEO　DVD-AUDIO　CD　VCD　SVCD
再生情報	TITLE 1 タイトル　CHAP 3 チャプター　GROUP 1 グループ　TRACK 1 トラック
再生状態	►：再生中　■：停止　II：一時停止中　◄◄ ►►：早送り/早戻し再生中　◄I I►：スロー/逆転スロー再生中

各種操作アイコン

TIME	：時間表示を切り換える
OFF	：リピートモードを選ぶ
→	：時間を指定して再生する
CHAP.→	：DVDビデオのチャプターを選んで再生する
TRACK→	：DVDオーディオのトラックを選んで再生する
1/8	：音声を選ぶ
1/ 3	：字幕を選ぶ
1/1	：アングルを選ぶ
PAGE 5/12	：BSPを選ぶ

オンスクリーン表示を消すには

画面表示を1回または2回押します。

オンスクリーンバーの基本操作

例：DVDビデオの字幕を切り換えます。

オンスクリーンバー表示中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 ►、◄で 1/3 を選ぶ

選んだアイコンはハイライト表示になります。

DVD-VIDEO 6.1Mbps TITLE 1 CHAP 3 TIME 00:01:40
TIME OFF CHAP.➡ 1/8 1/3 1/1

2 決定を押す

3 ▲、▼で字幕を選ぶ

・ボタンを押すごとに字幕が切り換わります。

4 決定を押す

再生する場所を数字ボタン(1〜9、0)で指定する

オンスクリーンバー表示中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 ►、◄で ➡ CHAP.➡ TRACK➡ のいずれかを選び、決定を押す

2 数字ボタン(1〜9、0)で再生したい番号または時間を入力する

番号5を入力するときは、「**5**」を押します。
番号15を入力するときは、「**1**」➡「**5**」を押します。
時間00：15：23を入力するときは、「**1**」➡「**5**」➡「**2**」➡「**3**」を押します。
時間01：23：40を入力するときは、「**1**」➡「**2**」➡「**3**」➡「**4**」➡「**0**」を押します。
・数字をまちがって入力したときは**キャンセル**を押して、入力し直します。

3 決定を押す

お知らせ *時間の指定について*

・ディスクによっては、時間を指定することができないことがあります。
・チャプター(「CHAP.」)はDVDビデオのときのみ選べます。
・トラック(「TRACK」)はDVDオーディオのときのみ選べます。

2点間をくり返し再生する(A-Bリピート再生)

オンスクリーンバー表示中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 ►、◄で OFF を選ぶ

DVD-VIDEO 6.1Mbps TITLE 1 CHAP 3 TIME 00:01:40
TIME OFF CHAP.➡ 1/8 1/3 1/1

2 決定を押す

3 ▲、▼で「A-B」を表示させる

・ここで他のリピートモード(➡ *21*ページ)を選ぶこともできます。

4 決定を押して、開始点(A)を選ぶ

A– が表示されます。

5 もう一度決定を押して、終了点(B)を選ぶ

A-Bリピート再生が始まります。

通常の再生に戻るには
手順*3*で「OFF」を選びます。

お知らせ *A-Bリピート再生について*

・開始点と終了点の間は5秒以上必要です。
・DVDビデオの複数のタイトルにまたがってA-Bリピート再生をすることはできません。
・ディスクによっては、A-Bリピート再生ができないことがあります。

リモコンの**A-Bリピート**を使って、オンスクリーンバーなしでA-Bリピート再生をすることもできます。

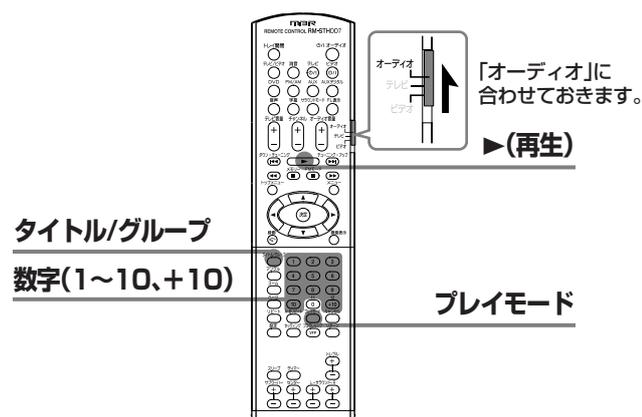
再生中に

1 A-Bリピートを押して開始点(A)を選ぶ

2 A-Bリピートを押して終了点(B)を選ぶ

A-Bリピート再生が始まります。

通常の再生に戻るには
もう一度、A-Bリピートを押します。

順序を変えて再生する

プログラム再生をする

最大99のチャプター/トラックを好きな順番で再生することができます。

停止中に　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 TV画面にプログラム画面が表示されるまで、プレイモードをくり返し押す

2 演奏したい順序に数字ボタン(1～10、+10)でチャプター/トラック番号を入力する

チャプター/トラック番号5を選ぶときは、「5」を押します。
チャプター/トラック番号12を選ぶときは、「+10」➡「2」を押します。
チャプター/トラック番号25を選ぶときは、「+10」を2回押して、「5」を押します。
- CD/VCD/SVCDでは、「Group/Title」欄に入力された数字は無視されます。
- DVDオーディオのボーナストラック(➡ 25ページ)を選ぶときは、あらかじめパスワードを入力してBONUS表示を消灯させておきます。
- 数字を間違って入力したときは、**キャンセル**を押します。

3 ►(再生)を押す

プログラム再生が始まります。
- プログラムされたすべてのチャプター/トラックの再生が終わると、プログラム画面が表示されます。

お知らせ *プログラム再生について*

プログラム再生中はリジューム機能は働きません。

通常の再生に戻すには
停止中にプレイモードを押して、プログラム画面または「ランダム」表示を消します。

すべてのチャプター/トラックを消すには
停止中に、■(停止)を押します。

ランダム再生をする　CD VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

ディスク内のタイトル/トラックを無作為な順番で一度ずつ再生することができます。

停止中に

1 TV画面に「ランダム」と表示されるまで、プレイモードをくり返し押す

2 ►(再生)を押す

ランダム再生が始まります。
- すべてのタイトル/トラックの再生が終わると、ランダム再生のモードは解除されます。

途中でランダム再生を止めるには
■(停止)を押して再生を止めてから、プレイモードを押して、プログラム画面または「ランダム」表示を消します。

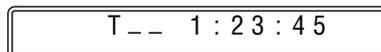
特定のタイトル/グループから再生する

ディスクによってはこの機能が働かないことがあります。

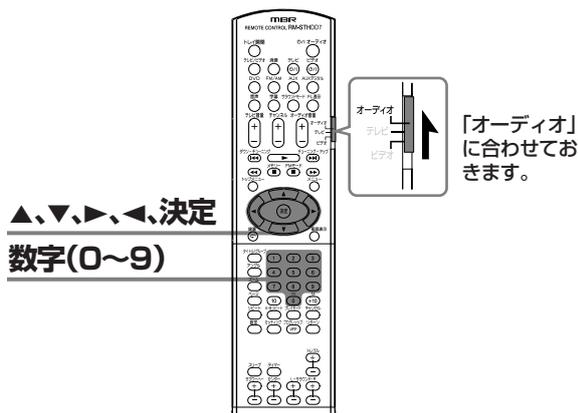
再生中または停止中に　DVD VIDEO DVD AUDIO

1 タイトル/グループ押す

タイトル/グループ表示が表示されます。
例：DVDビデオのとき

T＿＿　1：23：45

2 数字ボタン(1～10、+10)でタイトル/グループを選ぶ

選んだタイトル/グループの最初のチャプター/トラックの再生が始まります。

DVDオーディオの特別な再生をする

ボーナストラック再生をする

DVDオーディオによっては、キーナンバー(パスワード)を入力して再生することができるトラックが収録されていることがあります。これをボーナストラックと言います。
キーナンバーを手に入れる方法は、ディスクによって異なります。

BONUS表示の点灯中に

1 ►►|でボーナストラックを選ぶ

・多くの場合、ボーナストラックは最後にあります。

TV画面 KEY _ _ _ _

センターユニット KEY _ _ _ _ BONUS

2 キーナンバーを入力する

正しいキーナンバーを入力すると、**BONUS**表示が消灯し、ボーナストラックが再生できるようになります。
・キーナンバーが正しくないときは、入力表示はそのまま表示されます。

入力表示を消すには
次の操作のうちいずれかを行います。
・■(停止)を押す
・ディスクトレイを開ける
・本システムの電源を「切」にする

BSP(Browsable Still Picture)を再生する

(ブラウザブル スティル ピクチャー)

DVDオーディオによっては、音楽とともに自動で再生される静止画が収録されていることがあります。これをBSPと言います。
・リモコンの**ページ**を押して再生するBSPを選ぶこともできます。

再生中に**B.S.P.**表示が点灯しているとき

1 オンスクリーンバーを表示させ、►、◄で PAGE 5/12 を選ぶ

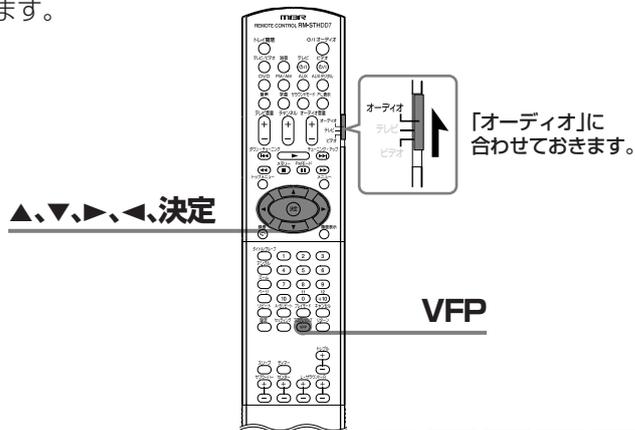
2 決定を押す

3 ▲、▼でBSPを選ぶ

4 決定を押す

画質を調節する

部屋の照明やお好みに合わせて画質を調節することができます。

再生中に VCD SVCD DVD VIDEO DVD AUDIO

1 VFPを押す

VFP画面が表示されます。

ノーマル	
ガンマ	0
明るさ	0
コントラスト	0
色のこさ	0
色合い	0
シャープネス	0

2 ►、◄でVFPのモードを選ぶ

・ノーマル　：通常はこれを選びます。
・シネマ　：映画を見るとき選びます。
・ユーザー1、2：設定を変更して記憶させるとき選びます。

「ユーザー1」または「ユーザー2」を選んだときは、次の手順で設定を変更することができます。

3 ▲、▼で変更したい項目を選び、決定を押す

・ガンマ　：画面の暗い部分と明るい部分の明るさを変えずに、中間の明るさを調節します。
・明るさ　：画面の明るさを調節します。
・コントラスト：画面のコントラストを調節します。
・色のこさ　：画面の色の濃さを調節します。
・色合い　：画面の色合いを調節します。
・シャープネス：画面のシャープさを調節します。

4 ▲、▼で項目の設定を調節し、決定を押す

5 手順3、4をくり返し他の項目を調節する

6 VFPを押す

音楽・映像ファイルの再生

音楽・映像ファイルについて

再生できる音楽・映像ファイル

本システムは、MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することもできます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ディスク」と呼びます。

MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ディスクには、それぞれの曲(トラック)や映像が各ファイルとして記録されています。さらに複数のファイルは、カテゴリー別、アーティスト別などの「フォルダ(グループ)」としてまとめて分類することができ、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

音楽・映像ファイルを作るときの注意

MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ファイルを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

MP3/WMAファイルについて

- 本システムでは、次のようなファイルは再生できません。
  - 「.MP3」「.mp3」「.WMA」「.wma」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- サンプリングレート44.1kHz/転送レート128kbpsのMP3ファイル、サンプリングレート44.1kHz/転送レート96kbpsのWMAファイルをお勧めします。
- 本システムはタグ情報に対応しています。タグ情報はTV画面に表示されます。

JPEGファイルについて

- 本システムでは、次のようなファイルは再生できません。
  - ベースライン方式以外のフォーマットで作成されているもの
  - 「.JPG」「.JPEG」「.jpg」「.jpeg」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- ファイル読み込み速度上、解像度640×480以内のファイルをお使いになることをおすすめします。

MPEG-4ファイルについて

- 本システムでは、次のようなファイルは再生できません。
  - 「.ASF」「.asf」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- 再生できるファイルは次の要件を満たしている必要があります。
  - ファイルフォーマット　：ASF
  - ビジュアルプロファイル　：MPEG-4 SP(シンプルプロファイル)
  - オーディオCODEC　：G.726
  - 最大画面サイズ　：352 x 288(CIF)
  - 最大ビットレート　：384kbps

お知らせ　*ファイル/フォルダについて*

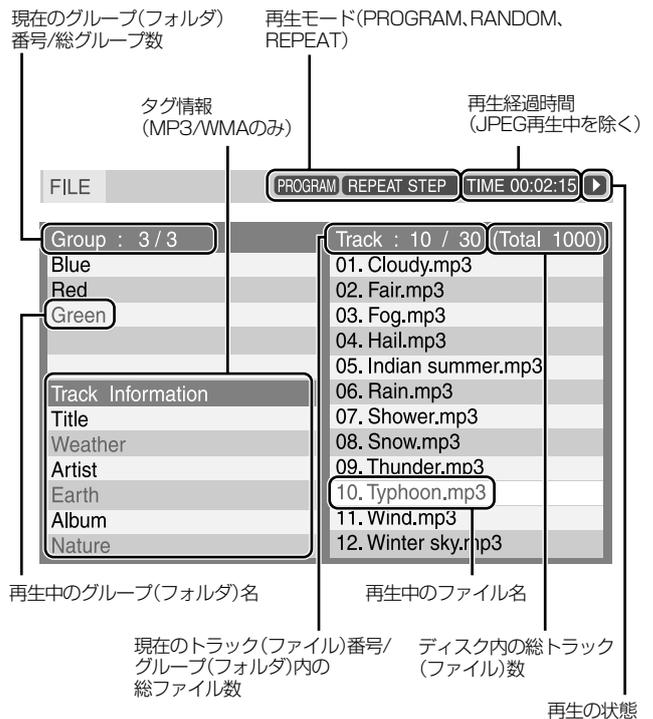
- 本システムは1つのフォルダ内に150までのファイル、1枚のディスク内に99までのフォルダを識別することができます。
- 本システムは、1枚のディスク内で、再生できるファイル以外のファイルも含めて、最大1000ファイルまでをファイル名のアルファベット順に識別することができます。1001番目以降の音楽・映像ファイルを再生することはできません。

ご注意

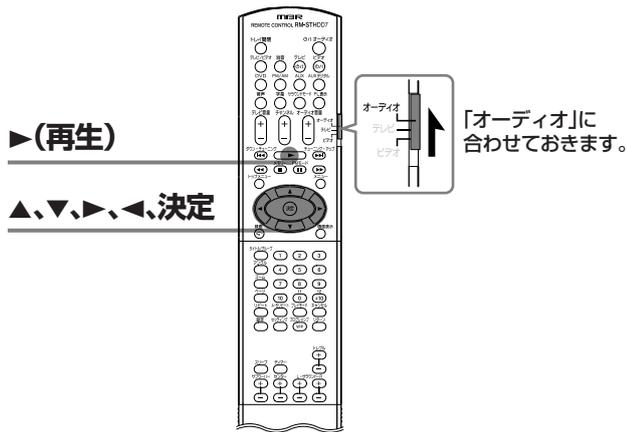
- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
- ファイルの作成ソフトとCD-R/CD-RW作成ソフトによっては、再生できないこともあります。

音楽・映像ファイルを再生する

本システムでは、MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ディスクを再生するとき、コントロール画面から行うことができます。

コントロール画面について

お知らせ　*表示されるファイルについて*

- 本システムでは、音楽・映像ファイルが混在するディスクを再生するとき、再生するファイルの種類をあらかじめ設定する必要があります。設定以外のファイルは、コントロール画面に表示されません。詳しくは、「初期設定メニュー」の「映像」(➡ **32** ページ)をご覧ください。
- ファイルの表示/再生の順序は、CD-R/CD-RWを作成したときの順序と異なる場合があります。
- コントロール画面は、MP3/WMAファイルの再生中や、MP3/WMA/JPEG/MPEG-4ディスクの再生を止めたとき、自動的に表示されます。

コントロール画面から再生する

コントロール画面表示中に

1 ▲、▼、►、◄でファイル(トラック)やフォルダ(グループ)を選ぶ

- MP3/WMAファイルを選ぶと、再生が始まります。
- **数字**ボタン(1～10、＋10)を使ってファイル番号を指定することもできます。

2 ►(再生)または決定を押す

- JPEGファイルを選んで、►(再生)を押すと、選んだファイルから、JPEGファイルが次々と再生されていきます(スライドショー再生)。**決定**を押すと、選んだファイルだけが再生されます。

いろいろな再生をする

音楽・映像ファイルの再生は、DVDビデオやCDなどと同じように操作することができます。

一時停止をする(全ファイル)

21ページ左側の「一時停止/コマ送りをする」をご覧ください。

早送り/早戻し再生をする(MPEG-4)

20ページ右側の「早送り/早戻し再生をする」をご覧ください。

グループ(フォルダ)を指定して再生をする(全ファイル)

24ページ右側の「特定のタイトル/グループから再生する」をご覧ください。

リジューム機能を使う(MPEG-4)

21ページ右側の「リジューム再生をする」をご覧ください。

画面を拡大表示する(JPEG/MPEG-4)

21ページ左側の「画面を拡大する」をご覧ください。

プログラム再生をする(MP3/WMA)

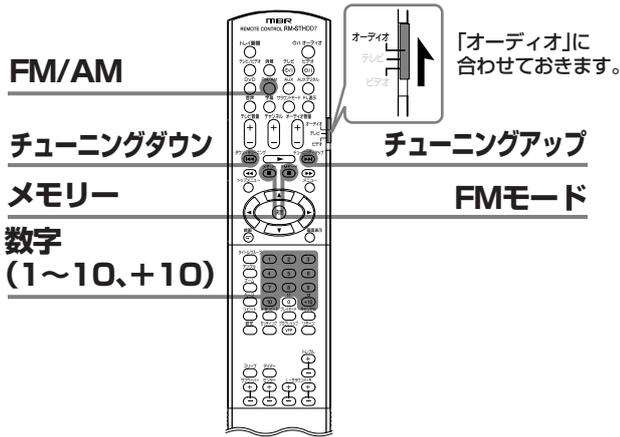
24ページ左側の「プログラム再生をする」をご覧ください。

ランダム再生をする(MP3/WMA)

24ページ右側の「ランダム再生をする」をご覧ください。

リピート再生をする(全ファイル)

21ページ右側の「くり返し再生をする」をご覧ください。
- A-Bリピート再生はできません。

ラジオの操作

聞きたい放送局を選ぶ

1 FM放送またはAM放送をソース(音源)に選ぶ

リモコンでは、FM/AMを押します。
・ボタンを押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り換わります。

センターユニットでは、SOURCE(ソース)をくり返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させます。

2 周波数を調節する

リモコンでは、**チューニングアップ**または**チューニングダウン**を押します。

センターユニットでは、►►|または|◄◄を押します。

お知らせ *選局について*

オート選局
チューニングアップまたは**チューニングダウン**を押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。

マニュアル選局
チューニングアップまたは**チューニングダウン**をくり返し押します。押すごとにFM放送は0.05MHz(50kHz)ずつ、AM放送は9kHzずつ変わります。

FM放送	0.05MHzずつ	:76.00MHz〜108.00MHz
AM放送	9kHzずつ	:531kHz〜1,629kHz

• 放送局を記憶させてあるときはプリセット番号で放送局を選ぶことができます(プリセット選局)。

お知らせ *受信表示とFM放送の受信モードについて*

放送を受信すると
放送を受信すると**TUNED**(チューンド)表示が点灯します。FMステレオ放送を受信すると **ST**表示も点灯します(AUTO(オート) MUTING(ミューティング)モード)。

FM放送の受信モード
FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときなどにリモコンの**FMモード**を押します。
音声はモノラルになりますが、雑音が消え放送が聞きやすくなることがあります。(MONOモード:**ST**表示が表示窓から消えます)
• 押すごとに、FM放送の受信モードが「AUTO MUTING」と「MONO」に切り換わります。

放送局を記憶させて選ぶ

一度記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。
・FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。

1 記憶させたい放送局を選ぶ

2 メモリーを押す

表示窓に**CH**表示が点灯します。

3 数字ボタン(1〜10、+10)押して記憶させたいプリセット番号を選ぶ

「5」を選ぶときは、「**5**」を押します。
「12」を選ぶときは、「**+10**」➡「**2**」を押します。
「22」を選ぶときは、「**+10**」➡「**+10**」➡「**2**」を押します。

4 メモリーを押す

放送局が記憶されます。

5 手順1〜4で他の放送局を記憶させる

記憶させた放送局を選ぶには
ソース(音源)がラジオのときに、数字ボタン(1〜10、+10)押してプリセット番号を選びます。

記憶させた放送局を削除するには
同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

音質・スピーカー音量の調節

サラウンドを楽しむ

本システムでは、次のサラウンドをお楽しみいただけます。
- マルチチャンネルサラウンド(PPCM、ドルビーデジタル*[1]、DTS*[2]、MPEG-2 AAC*[3])
- ドルビープロロジック II *[1](プロロジック II ムービー、プロロジック II ミュージック)
- オールチャンネルステレオ

■ マルチチャンネルサラウンド

マルチチャンネルサラウンドは、主にDVDオーディオ(PPCM、ドルビーデジタル)、DVDビデオ(ドルビーデジタル、DTS)、衛星デジタル放送(MPEG-2 AAC)で使われているサラウンドで、映画館や劇場のような音響効果をご家庭で再現します。

本システムでは、次の音声フォーマットの信号を入力すると、自動的に判別しサラウンドを「入」にします。

音声フォーマット	表示
	センターユニット
PPCM	P PCM
ドルビーデジタル	D
DTS	dts
MPEG-2 AAC	AAC

- PPCMのマルチチャンネル音声の再生が始まると、センターユニットの表示窓に「MULTI CH」と表示されます。
- MPEG-2 AACは、BSデジタルチューナーや地上デジタルチューナーなどを本システムの光デジタル入力端子に接続し、ソース(音源)を「AUX デジタル」にしてお楽しみください。

■ ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック IIは、CDなどの2チャンネルソースを最大5.1チャンネルにしてお楽しみいただけるサラウンドです。次の2つのモードがあります。
- **プロロジック II ムービー(PLII MOVIE)**
  :映画ソフト向けの5.1チャンネルサラウンド
- **プロロジック II ミュージック(PLII MUSIC)**
  :音楽ソフト向けの5.1チャンネルサラウンド

ドルビープロロジック IIサラウンドを使っているときは、センターユニットの表示窓の PLII表示が点灯します。

■ オールチャンネルステレオ

CDなどの2チャンネルソース(音源)の再生中に、5本のスピーカーを使ってステレオ音声を楽しむためのモードです。スピーカー2本のときよりも、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。

オールチャンネルステレオを使っているときは、センターユニットの表示窓のDSP表示が点灯します。

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

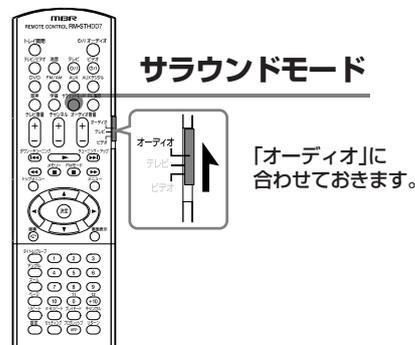
*[2] DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

マルチチャンネルサラウンドを使う

本システムでは、マルチチャンネル音声を再生すると、自動的にサラウンドが「入」になります(オートサラウンド)。

このとき、**サラウンドモード**を押してサラウンドを「切」にすると、2チャンネルにダウンミックスされて再生されます。
- DVDオーディオでダウンミックスが禁止されている音声の場合は、センターユニットの表示窓に「L R ONLY」と表示され、フロントスピーカー左右のチャンネル音声のみ聞くことができます。

ドルビープロロジックII/オールチャンネルステレオを使う

ドルビープロロジックII/オールチャンネルステレオは、次の音声のときは働きません。
- マルチチャンネル音声
- ソース(音源)がラジオのとき
- MPEG-4ファイル

サラウンドモードを押す

- ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り換わります。

PL II MOVIE :プロロジックIIムービー
↓
PL II MUSIC :プロロジックIIミュージック
↓
ALL CH ST. :オールチャンネルステレオ
↓
SURR OFF :サラウンド「切」
↓
AUTO SURR :オートサラウンド「入」

*[3] 米国パテントナンバー

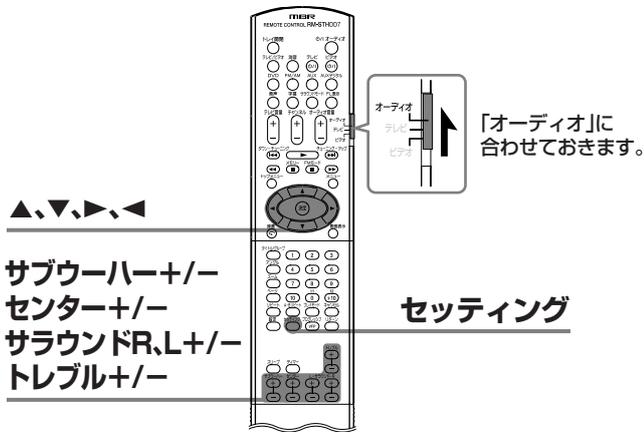
5,848,391;	5,291,557;	5,451,954;
5,400,433;	5,222,189;	5,357,594;
5,752,225;	5,394,473;	5,583,962;
5,274,740;	5,633,981;	5,297,236;
4,914,701;	5,235,671;	07/640,550;
5,579,430;	08/678,666;	98/03037;
97/02875;	97/02874;	98/03036;
5,227,788;	5,285,498;	5,481,614;
5,592,584;	5,781,888;	08/039,478;
08/211,547;	5,703,999;	08/557,046;
08/894,844		

音質・スピーカー音量の調節

つづき

音声やその他の調節をする

スピーカーごとに音量を調節する

各スピーカーの出力レベルを調節します。

1 ラジオ以外のソース(音源)を選ぶ

2 各スピーカーの音量を調節する

- サブウーハー：サブウーハー+/−を押します。
- センタースピーカー：センター+/−を押します。
- サラウンドスピーカー右
  ：サラウンドR+/−を押します。
- サラウンドスピーカー左
  ：サラウンドL+/−を押します。

高音を調節する

トレブル+/−を押す

その他の設定をする

バランス(**BAL**)、デコードモード(**DEC**)、オーディオポジション(**A. POS.**)の設定をします。

1 セッティングを押す

前回設定した項目がセンターユニットの表示窓に表示されます。

```
BAL : CENTER
```

2 ▲、▼で設定項目を選ぶ

- ボタンを押すごとに、設定項目が次のように切り換わります。

BAL：フロントスピーカーの左右の音量バランスを調節します。
↕
DEC：デコードモードを設定します。
↕
A. POS.：オーディオポジションを設定します。

3 ►、◄で設定または調節する

- **BAL**：左右どちらかのスピーカーの音量を下げます。右が下がっているときは「R」、左のときは「L」が表示されます。バランスがつり合っているときは「CENTER」と表示されます。
- **DEC**：デジタル接続された外部機器の音声がドルビーデジタルやDTSのとき、あらかじめデコードモードを設定しておくことができます。

次のようなときに便利です。

- 再生の冒頭部分で音声が聞こえないとき
- チャプターを選ぶとノイズが入るとき

設定値は次の3つです。

AUT/PCM：通常はこれを選びます。
DOLBY D：音声がドルビーデジタルのとき選びます。ドルビーデジタル音声以外の音声は聞こえません。
DTS：音声がDTSのとき選びます。DTS音声以外の音声は聞こえません。
AAC：音声がMPEG-2 AACのとき選びます。MPEG-2 AAC音声以外の音声は聞こえません。

- **A.POS.**：サラウンド再生中とステレオ再生中のサブウーハーの音量差を設定します。設定値を大きくすると、ステレオ再生時のサブウーハー音量がより小さくなります。

初期設定メニュー

初期設定メニューで設定する

初期設定メニューを使って、DVDビデオを再生するときの音声や字幕の言語やスピーカー音量などをあらかじめ設定しておくことができます。
本システムの初期設定メニューは、5つの設定メニュー画面で構成されています。

・ソース(音源)が「DVD」のとき、メニュー画面を表示させることができます。

初期設定メニューの構成

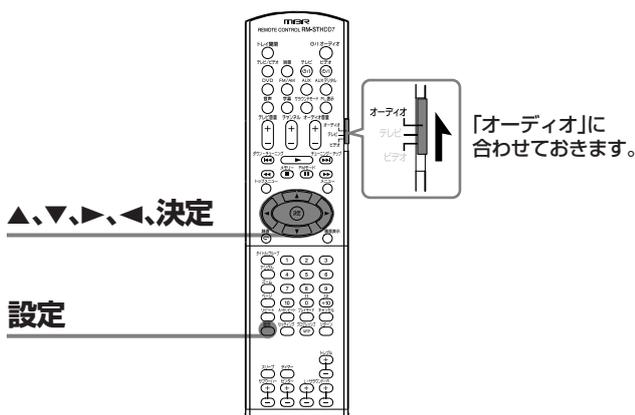
言語　：複数の音声や字幕が収録されているDVDビデオを再生するときや、メニュー画面の言語などを選ぶことができます。

映像　：お手持ちのテレビ(モニター)に合わせて画面サイズなどを変更するときに選びます。

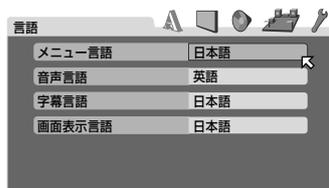
音声　：ダイナミックレンジコンプレッションなどの設定を行います。

スピーカー　：スピーカーの配置に合わせた設定を行います。

その他　：視聴制限などの設定を行います。

初期設定メニューの基本操作

ソース(音源)が「DVD」のとき

1 設定を押す

TV画面に初期設定メニューが表示されます。

2 ►、◄を押して設定メニューを選ぶ

・ボタンを押すごとに、設定メニューが切り換わります。

3 ▲、▼を押して設定したい項目を選ぶ

4 決定を押す

メニュー画面やプルダウンメニューが表示されます。

5 ▲、▼を押して設定値を選ぶ

6 決定を押す

・これで、選んだ項目についての設定は終わりです。続けて他の項目の設定をすることができます。

初期設定メニューを消すには
設定を押します。

お知らせ *初期設定メニューの操作について*

設定メニュー表示中は、メニュー項目の下に操作の説明が表示されます。

「言語」メニューの項目

- メニュー言語
- 音声言語
- 字幕言語
- 画面表示言語

メニュー言語

複数の言語によるメニュー画面が収録されているDVDを再生するときに、あらかじめどの言語のメニューで再生するかを決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、その他(「言語コード表」➡ ***33***ページ)から選べます。

音声言語

複数の音声が収録されているDVDを再生するときに、あらかじめどの音声で再生するか決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、その他(「言語コード表」➡ ***33***ページ)から選べます。

字幕言語

複数の言語による字幕が収録されているDVDを再生するときに、あらかじめどの言語の字幕で再生するかを決めておくことができます。

日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ドイツ語、イタリア語、その他(「言語コード表」➡ ***33***ページ)から選べます。

画面表示言語

設定メニューの表示言語を切り換えることができます。

日本語、英語から選べます。

- 日本語に設定してもアルファベットで表示される項目もあります。

初期設定メニュー

つづき

「映像」メニューの項目

- TVタイプ
- 映像ソース
- スクリーンセーバー
- ファイルタイプ

TV タイプ

映画ソフトの多くは、縦横比16対9の横長(ワイド)テレビ用の映像が収録されています。この横長(ワイド)テレビ用の映像を、ご覧になるテレビのタイプに合わせることができます。

「16:9」：横長(ワイド)テレビで見るときに選びます。

「レターボックス」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。上下に黒い隙間がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。

「パンスキャン」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。左右両端が切り取られる状態で映ります。上下に黒い隙間は映りません。
- パンスキャンを選んでも、ディスクが対応していないときは、レターボックスになります。

映像ソース

プログレッシブ映像を最適な画質で見るための設定です。

「オート」：素材のタイプを自動判別します。ビデオ素材とフィルム素材が混在した映像に適しています。通常はこの設定にします。

「フィルム」：フィルム素材の映像に適しています。

「ビデオ」：ビデオ素材の映像に適しています。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバー機能を「入/切」します。

ファイルタイプ

ディスクに音楽ファイルと映像ファイルなどが混在しているとき、再生する音楽・映像ファイルの種類を設定します。設定以外の種類のファイルは、再生されません。

「オーディオ」：MP3/WMAファイルのみを再生します。

「静止画」：JPEGファイルのみを再生します。

「ビデオ」：MPEG-4ファイルのみを再生します。

ファイルタイプの設定の変更後は、一度本システムの電源を「切」にしてください。

「音声」メニューの項目

- デジタルOUT
- Dレンジコントロール

デジタルOUT

センターユニット後面の光デジタル出力端子に接続している機器に応じて選びます。

「PCMのみ」：MDレコーダーなどの録音機器に接続するとき選びます。

「DOLBY DIGITAL/PCM」：ドルビーデジタルデコーダー搭載のアンプまたはドルビーデジタルデコーダーに接続するとき選びます。

「ストリーム/PCM」：DTSデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、MPEGデコーダー搭載のアンプ、またはそれぞれのデコーダーと接続するとき選びます。

Dレンジコントロール

この機能を「オン」にすると、最大音声と最小音声の差を圧縮され、小さな音量でも迫力のある音声を楽しめます。
この機能はドルビーデジタルの再生時のみ働きます。

「オート」：Dレンジコントロールを使いません。

「オン」：Dレンジコントロールを使います。

「スピーカー」メニューの項目

- レベル
- ディスタンス

レベル

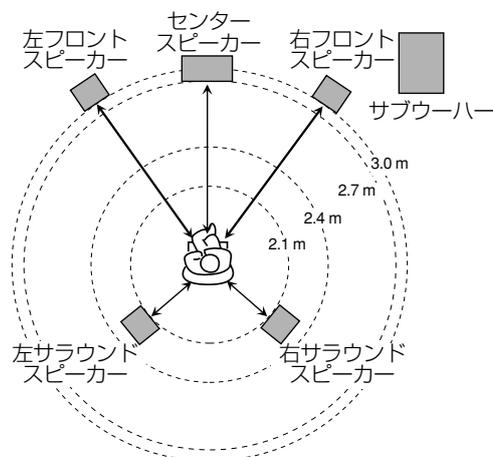
スピーカーごとに音量を調節することができます。

「センタースピーカー」、「サラウンドスピーカー左」、「サラウンドスピーカー右」、「サブウーハー」
：スピーカーを選んでから、音量を調節します。

「テストトーン」：テストトーンを出力します。テストトーンは現在使用されているスピーカーから出力されます。出力順序は視聴位置を中心に時計まわりになります。

「戻る」：「スピーカー」メニューに戻ります。

ディスタンス

各スピーカーの距離が視聴位置から等しくないとき、スピーカーごとの距離を設定します。これにより、スピーカーからの音声出力のタイミングを調節し、サラウンドの効果を高めます。

「フロントスピーカー」、「センタースピーカー」、「サラウンドスピーカー」

: スピーカーを選んでから、距離を設定します。上の例では、フロントスピーカーは「３.０ｍ」、センタースピーカーは「２.７ｍ」、サラウンドスピーカーは「2.1m」に設定します。
設定できる距離は、0.3m単位に0.3mから9.0mまでです。

「戻る」 : 「スピーカー」メニューに戻ります。

「その他」メニューの項目

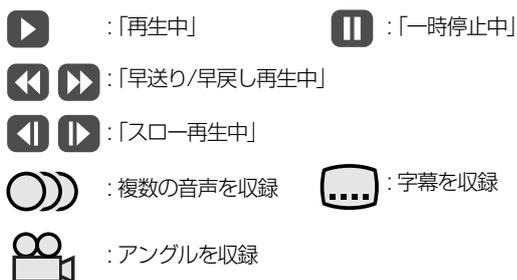
- **リジューム**
- **オンスクリーンガイド**
- **AVコンピュリンクモード**
- **視聴制限**

リジューム

リジューム機能を「入/切」します。

オンスクリーンガイド

オンスクリーンガイドを表示させるかどうかを設定します。オンスクリーンガイドには、以下のものがあります。

- ▶ :「再生中」
- ⏸ :「一時停止中」
- ◀◀ ▶▶ :「早送り/早戻し再生中」
- ◀| |▶ :「スロー再生中」
- :複数の音声を収録
- :字幕を収録
- :アングルを収録

AVコンピュリンクモード

本システムをAVコンピュリンク対応テレビに接続したとき、接続先の端子の種類を設定します。通常は「DVD1」に設定します。

視聴制限

DVDには、視聴に際し過激なシーンを見せないように設定できる視聴制限(パレンタルロック)に対応しているものがあります。
視聴制限を設定すると、視聴レベルを超えるDVDを見るときはパスワードが必要となります。

「カントリーコード」: お好みの地域(➡ 34ページ)を選ぶことができます。通常は「JP(日本)」を選びます。

「セットレベル」 : 視聴レベルを設定します。「レベル1」がもっとも制限が厳しく、「なし」は視聴制限をしません。

「パスワード」 : この項目は必要なときに自動的に選ばれます。**数字**ボタン(0〜9)ボタンで4ケタの数字を入力し、**決定**を押します。パスワード入力に3回失敗すると、「EXIT」が自動で選ばれます。このようなときは、もう一度最初からやり直してください。

「EXIT」 : 「その他」メニューに戻ります。

言語コード表

コード	言語
AA	アファル語
AB	アブバジア語
AF	アフリカーンス語
AM	アムハラ語
AR	アラビア語
AS	アッサム語
AY	アイマラ語
AZ	アゼルバイジャン語
BA	バシキール語
BE	ベラルーシ語
BG	ブルガリア語
BH	ビハーリー語
BI	ビスラマ語
BN	ベンガル語、バングラ語
BO	チベット語
BR	ブルトン語
CA	カタロニア語
CO	コルシカ語
CS	チェコ語
CY	ウェールズ語
DA	デンマーク語
DZ	ブータン語
EL	ギリシャ語
EO	エスペラント語
ET	エストニア語
EU	バスク語
FA	ペルシャ語
FI	フィンランド語
FJ	フィジー語
FO	フェロー語
FY	フリジア語
GA	アイルランド語
GD	スコットランドゲール語
GL	ガルシア語
GN	グアラニ語
GU	グジャラード語
HA	ハウサ語
HI	ヒンディー語
HR	クロアチア語
HU	ハンガリー語
HY	アルメニア語
IA	国際語
IE	国際語
IK	イヌピック語
IN	インドネシア語
IS	アイスランド語
IW	ヘブライ語
JI	イディッシュ語
JW	ジャワ語
KA	グルジア語
KK	カザフ語
KL	グリーンランド語
KM	カンボジア 語
KN	カンナダ語
KO	韓国（朝鮮）語
KS	カシミール語
KU	クルド語
KY	キルギス語
LA	ラテン語
LN	リンガラ語
LO	ラオス語
LT	リトアニア語
LV	ラトビア語、レット語
MG	マダガスカル語
MI	マオリ語
MK	マケドニア語
ML	マラヤーラム語
MN	モンゴル語
MO	モルダビア語
MR	マラータ語
MS	マライ（マレー）語
MT	マルタ語
MY	ミャンマー語
NA	ナウル語
NE	ネパール語
NL	オランダ語
NO	ノルウェー語
OC	プロバンス語
OM	（アフォン）オロモ語
OR	オリヤー語
PA	パンジャブ語
PL	ポーランド語
PS	パシュトー語
PT	ポルトガル語
QU	ケチュア語
RM	ラエティ - ロマン語
RN	キルンディ語
RO	ルーマニア語
RU	ロシア語
RW	キニヤルワンダ語
SA	サンスクリット語
SD	シンド語
SG	サンド語
SH	セルボアクロアチア語
SI	シンハラ語
SK	スロバキア語
SL	スロベニア語
SM	サモア 語
SN	ショナ語
SO	ソマリ語
SQ	アルバニア語
SR	セルビア語
SS	シスワティ語
ST	セストゥ語
SU	スンダ語
SV	スウェーデン語
SW	スワヒリ語
TA	タミール語
TE	テルグ語
TG	タジク語
TH	タイ語
TI	ティグリニャ語
TK	トゥルクメン語
TL	タガログ語
TN	セツワナ語
TO	トンガ語
TR	トルコ語
TS	ツォンガ語
TT	タタール語
TW	トウィ語
UK	ウクライナ語
UR	ウルドゥー語
UZ	ウズベク語
VI	ベトナム語
VO	ヴラピュク語
WO	ウォロフ語
XH	コーサ語
YO	ヨルバ語
ZU	ズール語

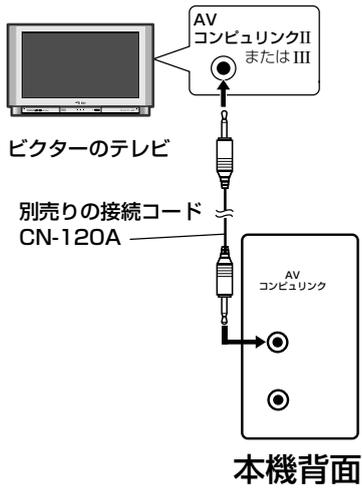
カントリー/エリアコード一覧

コード	カントリー/エリア
AD	Andorra
AE	United Arab Emirates
AF	Afghanistan
AG	Antigua and Barbuda
AI	Anguilla
AL	Albania
AM	Armenia
AN	Netherlands Antilles
AO	Angola
AQ	Antarctica
AR	Argentina
AS	American Samoa
AT	Austria
AU	Australia
AW	Aruba
AZ	Azerbaijan
BA	Bosnia and Herzegovina
BB	Barbados
BD	Bangladesh
BE	Belgium
BF	Burkina Faso
BG	Bulgaria
BH	Bahrain
BI	Burundi
BJ	Benin
BM	Bermuda
BN	Brunei Darussalam
BO	Bolivia
BR	Brazil
BS	Bahamas
BT	Bhutan
BV	Bouvet Island
BW	Botswana
BY	Belarus
BZ	Belize
CA	Canada
CC	Cocos (Keeling) Islands
CF	Central African Republic
CG	Congo
CH	Switzerland
CI	Côte d’Ivoire
CK	Cook Islands
CL	Chile
CM	Cameroon
CN	China
CO	Colombia
CR	Costa Rica
CU	Cuba
CV	Cape Verde
CX	Christmas Island
CY	Cyprus
CZ	Czech Republic
DE	Germany
DJ	Djibouti
DK	Denmark
DM	Dominica
DO	Dominican Republic
DZ	Algeria
EC	Ecuador
EE	Estonia
EG	Egypt
EH	Western Sahara
ER	Eritrea
ES	Spain
ET	Ethiopia
FI	Finland
FJ	Fiji
FK	Falkland Islands (Malvinas)
FM	Micronesia (Federated States of)
FO	Faroe Islands
FR	France
FX	France, Metropolitan
GA	Gabon
GB	United Kingdom
GD	Grenada
GE	Georgia
GF	French Guiana
GH	Ghana
GI	Gibraltar
GL	Greenland
GM	Gambia
GN	Guinea
GP	Guadeloupe
GQ	Equatorial Guinea
GR	Greece
GS	South Georgia and the South Sandwich
GT	Guatemala
GU	Guam
GW	Guinea-Bissau
GY	Guyana
HK	Hong Kong
HM	Heard Island and McDonald Islands
HN	Honduras
HR	Croatia
HT	Haiti
HU	Hungary
ID	Indonesia
IE	Ireland
IL	Israel
IN	India
IO	British Indian Ocean Territory
IQ	Iraq
IR	Iran (Islamic Republic of)
IS	Iceland
IT	Italy
JM	Jamaica
JO	Jordan
JP	Japan
KE	Kenya
KG	Kyrgyzstan
KH	Cambodia
KI	Kiribati
KM	Comoros
KN	Saint Kitts and Nevis
KP	Korea, Democratic People’s Republic of
KR	Korea, Republic of
KW	Kuwait
KY	Cayman Islands
KZ	Kazakhstan
LA	Lao People’s Democratic Republic
LB	Lebanon
LC	Saint Lucia
LI	Liechtenstein
LK	Sri Lanka
LR	Liberia
LS	Lesotho
LT	Lithuania
LU	Luxembourg
LV	Latvia
LY	Libyan Arab Jamahiriya
MA	Morocco
MC	Monaco
MD	Moldova, Republic of
MG	Madagascar
MH	Marshall Islands
ML	Mali
MM	Myanmar
MN	Mongolia
MO	Macau
MP	Northern Mariana Islands
MQ	Martinique
MR	Mauritania
MS	Montserrat
MT	Malta
MU	Mauritius
MV	Maldives
MW	Malawi
MX	Mexico
MY	Malaysia
MZ	Mozambique
NA	Namibia
NC	New Caledonia
NE	Niger
NF	Norfolk Island
NG	Nigeria
NI	Nicaragua
NL	Netherlands
NO	Norway
NP	Nepal
NR	Nauru
NU	Niue
NZ	New Zealand
OM	Oman
PA	Panama
PE	Peru
PF	French Polynesia
PG	Papua New Guinea
PH	Philippines
PK	Pakistan
PL	Poland
PM	Saint Pierre and Miquelon
PN	Pitcairn
PR	Puerto Rico
PT	Portugal
PW	Palau
PY	Paraguay
QA	Qatar
RE	Réunion
RO	Romania
RU	Russian Federation
RW	Rwanda
SA	Saudi Arabia
SB	Solomon Islands
SC	Seychelles
SD	Sudan
SE	Sweden
SG	Singapore
SH	Saint Helena
SI	Slovenia
SJ	Svalbard and Jan Mayen
SK	Slovakia
SL	Sierra Leone
SM	San Marino
SN	Senegal
SO	Somalia
SR	Suriname
ST	Sao Tome and Principe
SV	El Salvador
SY	Syrian Arab Republic
SZ	Swaziland
TC	Turks and Caicos Islands
TD	Chad
TF	French Southern Territories
TG	Togo
TH	Thailand
TJ	Tajikistan
TK	Tokelau
TM	Turkmenistan
TN	Tunisia
TO	Tonga
TP	East Timor
TR	Turkey
TT	Trinidad and Tobago
TV	Tuvalu
TW	Taiwan
TZ	Tanzania, United Republic of
UA	Ukraine
UG	Uganda
UM	United States Minor Outlying Islands
US	United States
UY	Uruguay
UZ	Uzbekistan
VA	Vatican City State (Holy See)
VC	Saint Vincent and the Grenadines
VE	Venezuela
VG	Virgin Islands (British)
VI	Virgin Islands (U.S.)
VN	Vietnam
VU	Vanuatu
WF	Wallis and Futuna Islands
WS	Samoa
YE	Yemen
YT	Mayotte
YU	Yugoslavia
ZA	South Africa
ZM	Zambia
ZR	Zaire
ZW	Zimbabwe

AVコンピュリンクの活用

一つの機器の操作に連動してほかの機器を動作させることによって、簡単な操作を実現したものがAVコンピュリンク機能です。ビクター製の機器をモノラルミニプラグ付きの接続コード(CN-120A:別売り)を使って各機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。機器によっては、AV COMPULINK端子と英語で表記されていますが、同様の端子です。
- 接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。すべての接続が終わってから電源を入れてください。
- AVコンピュリンクモードの設定(DVD1～DVD3 の切り換え)は、初期設定メニュー(➡ **33**ページ)で操作します。
- テレビの取扱説明書も併せてお読みください。

■ テレビとのAVコンピュリンク接続

本機背面

- ビデオ3に接続したときは、「DVD1」に設定してありますので、そのまま使えます。ただし、ビデオ3がDV/ムービー入力のときは、この端子にはAVコンピュリンクが働きません。

テレビの入力端子	AV コンピュリンクモードの設定
ビデオ 1のとき	DVD 2
ビデオ2のとき	DVD 3

操作方法

本システムを再生するだけで音や映像を鑑賞することができます。テレビの入力を切り換えたり、あらかじめ電源を「入」にする操作は必要ありません。

1 テレビの主電源スイッチを「入」にする

2 本システムにディスクを入れる

3 本システムの►(再生)を押す

次の動作が自動的に行われます。
- テレビの電源が「入」になります。
- テレビの入力切換がソース機器を接続している外部入力(ビデオ1、ビデオ2、またはビデオ3)になります。

故障かな?と思う前に

故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ **38** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ **18** ページ)
システムが正しく働かない。		電源を「切」にして、電源プラグをコンセントからいったん抜いて、しばらく待ってから、差し込み直して電源を入れ直す。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	センターユニットから離れすぎている。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ **16**ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ **16** ページ)
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
	リモコンがテレビ操作モードやビデオデッキ操作モードになっている。	**リモコンモード切換スイッチ**を「オーディオ」に合わせる。(➡ **18**ページ)
	リモコンの操作モードがセンターユニットのソース(音源)と異なっている。	DVDを操作するときは、リモコンの**DVD**を押してから行ってください。 ラジオを操作するときは、リモコンの**FM/AM**を押してから行ってください。FMとAMが入れ替わったときは、もう一度リモコンの**FM/AM**を押してください。
リモコンでテレビやビデオデッキが操作できない。	入力したメーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。(➡ **17** ページ)
	リモコンがテレビ操作モードになっていない。	**リモコンモード切換スイッチ**を「テレビ」に合わせる。(➡ **17** ページ)
	リモコンがビデオデッキ操作モードになっていない。	**リモコンモード切換スイッチ**を「ビデオ」に合わせる。(➡ **17** ページ)

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、センターユニットの電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**を押して消音機能を解除する。(➡ **18** ページ)
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ **7** ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
音がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ **7** ページ)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	プログレッシブ非対応のテレビを接続しているが、本システムのスキャンモードがプログレッシブスキャンモードに設定されている。	本システムのスキャンモードをインターレーススキャンモードに設定する。(➡ ***16*** ページ)
映像がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ ***7*** ページ)
	センターユニットとテレビの間にビデオデッキを接続している。	センターユニットとテレビを直接接続する。
動画にノイズが出る。	「映像」メニューの「映像ソース」が「オート」に設定されているとき、ディスクによっては画像ノイズが発生することがある。	「映像」メニューの「映像ソース」の設定を「オート」から「ビデオ」に変更する。(➡ ***32*** ページ)

ディスクについて

症　状	原　因	処　置
テレビ画面に「リージョンコードエラー!」と表示される。	本システムとディスクのリージョンコード(再生可能地域番号)が異なっている。	そのディスクは再生できません。
再生ができない。(センターユニットの表示窓に「0:00」と表示されて、再生が始まらない。	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクを再生しようとしている。	ディスクを確認する。(➡ ***7*** ページ)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。
ディスクを再生するとパスワード画面が表示される。	視聴制限が設定されている。	視聴制限の設定を変更する。(➡ ***33*** ページ)
音声言語/字幕言語が切り換えられない。	再生中のディスクに複数の言語が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
	再生中のディスクに字幕が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
字幕が出ない。	字幕の設定が「オフ(OFF)」になっている。	字幕を正しく設定する。(➡ ***20*** ページ)
アングルが切り換えられない。	再生中のディスクに複数のアングル(マルチアングル)が収録されていない。	そのディスクでは切り換えられません。
「NO AUDIO」とセンターユニットの表示窓に表示され、音声が聞こえない。	再生しようとしているDVDオーディオにウォーターマークが入っている。	DVDオーディオの購入元にご相談ください。

音楽・映像ファイルについて

症　状	原　因	処　置
再生ができない。(センターユニットの表示窓に「0:00」と表示されて、再生が始まらない。)	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクがディスクトレイに入っている。	ディスクを確認する。(➡ ***7*** ページ)
再生されないファイルがある。	MP3/WMAファイルやJPEGファイルなどのファイル名が正しくない(拡張子がないなど)ファイルがディスクに入っている。	ディスクを確認し、正しいファイル名に直す。(➡ ***26*** ページ)
正しく動作しない。	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。

ラジオについて

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

36ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	DVDデジタルシアターシステム
型名	TH-DD7
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182) 32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 246-2588	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 3727-9385	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 3874-5231	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048) 553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044) 975-1879	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463) 36-2160	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下下条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593) 52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.S.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.C.	(0742)35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792) 34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡 佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0704

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

センターユニット(XV-THDD7)

再生可能ディスク	DVDオーディオ、DVDビデオ、DVD-R/-RW(ビデオフォーマット)、スーパービデオCD、ビデオCD、オーディオCD、CD-R/RW(オーディオCD、ビデオCD、MP3ディスク、WMAディスク、JPEGディスク、MPEG-4ディスク)
映像信号方式	JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式

【映像特性】

水平解像度	500本以上
S/N比	64dB
	出力レベル/インピーダンス
映像(コンポジット)出力	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
S映像出力 Y出力:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
C出力:	0.286V(p-p)/75Ω
D1/D2映像出力	
Y出力:	1.0V(p-p)/75Ω
P_B/P_R出力:	0.7V(p-p)/75Ω

【オーディオ特性】

全高調波ひずみ率	0.02%(JEITA)
アナログ音声入力	入力感度/インピーダンス
AUX IN:	500mV/ 47kΩ
デジタル音声入力	
デジタル光入力:	−21dBm ～ −15dBm
デジタル音声出力	
デジタル光出力:	−21dBm ～ −15dBm

【アンプ部】

実用最大出力	
フロント:	52W+52W(10% THD)
センター:	52W(10% THD)
サラウンド:	52W+52W(10% THD)
サブウーハー:	52W(10% THD)
出力端子(適合インピーダンス)	
フロント×2:	(最小6Ω)
センター×1:	(最小6Ω)
サラウンド×2:	(最小6Ω)
サブウーハー×1:	(最小6Ω)

【FMチューナー部】

受信周波数	76.00MHz～108.00MHz
アンテナ	75Ω不平衡型

【AMチューナー部】

受信周波数	531kHz～1,629kHz
アンテナ	外部アンテナ端子(ループアンテナ)

【その他】

スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分
電　源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz共用
消費電力	電源「入」時　120W 電源「切(待機)」時　1.0W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	360mm×65mm×370mm
質　量	5.3kg

サブウーハー(SP-WDD7)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	17cm　コーン型×1
最大入力	52W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	40Hz～1800Hz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	139mm×350mm×408mm
質　量	4.0kg

フロントスピーカー/サラウンドスピーカー(SP-THDD7F)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	9.5cm×1.0cm　ダイレクトドライブ
最大入力	55W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	100Hz～20kHz
出力音圧レベル	79dB/W・m
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	282mm×1108mm×282mm
質　量	2.85kg

センタースピーカー(SP-THDD7C)

形　式	1ウェイバスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー	6cm　コーン型×2
最大入力	55W(JIS)
定格インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	80Hz～20kHz
出力音圧レベル	79dB/W・m
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	200mm×78mm×120mm
質　量	0.85kg

- 本システムの仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による測定値です。

用語解説

アルファベット

ASF(Advanced Streaming Format)
MPEG-4シンプルプロファイルのフォーマットの一つで、音声、動画、テクストなど様々な情報を持つことができます。

CODEC(コーデック)
デジタルデータを圧縮復元するための処理手順のことです。

DTS
デジタル・シアター・システム社が開発したデジタルマルチチャンネルフォーマットで、DVDビデオやCDで利用されています。

D映像端子
コンポーネント映像を1本のコードで接続できる端子です。
本システムは、インターレース(525i)が扱えるD1映像とプログレッシブ(525p)も扱えるD2映像に対応しています。

JPEG(Joint Photographic coding Experts Group)
静止画情報圧縮フォーマットの一つで、インターネットやデジタルカメラなどに広く利用されています。

LPCM(リニアPCM)音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。オーディオCDなどで利用されています。

MP3(MPEG Audio layer 3)
音声情報圧縮の国際規格で、音声データを元の音質を大きく損なうことなく、約1/10に圧縮することができるフォーマットです。

MPEG-2 AAC
主に衛星デジタル放送で利用されているデジタルマルチチャンネルフォーマットです。

MPEG-4
動画圧縮フォーマットの一つで、PCやデジタルムービーなどで利用されています。多くのコーデックが存在します。

PBC(プレイバックコントロール)
VCD(バージョン2.0)やSVCDに記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

PPCM(パックドPCM)音声
DVDオーディオで扱われる圧縮されたPCM信号です。変換すると圧縮前のPCM信号を再現できるのが特長です。

VFP(ビデオファインプロセッサー)
映像の微妙な調整を可能にする日本ビクター独自の機能です。映画フィルムの質感にも迫る、なめらかで階調の深い映像表現の追求をモニター上でも可能にしました。

WMA
米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮フォーマットです。MP3より小さいファイルサイズで同等の音質が実現できます。

あ〜な

インターレーススキャン(飛び越し走査)
従来のテレビで用いられているスキャンモードで、それぞれのフレーム情報を半分に「間引き」して1つのフィールド情報とし、連続した2つのフィールドを使って1つの画面(フレーム)を作る方法です。

カーソル
オンスクリーンメニューや初期設定メニューなどの設定を変更するポイントのことをいい、リモコンの▲、▼、►、◄を使ってポイントを移動させます。

片面ディスク
DVDのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット
輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント
光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/B、Y/P_B/P_R、Y/C_B/C_Rなどの信号形式があります。

サラウンド
視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

ストリーム(ビットストリーム)
各種エンコーダーによってコード化されたデジタル信号のことです。本システムの光デジタル出力端子から出力する信号の形状の種類のひとつです。

タイトル/チャプター
DVDビデオは、タイトルとチャプターから構成されています。タイトル内には複数のチャプターが含まれます。映画ソフトの場合、チャプターはシーンごとに作られています。

ダウンミックス
複数のチャンネル音声を、音声要素をできるだけ損なわないように一つのチャンネル音声にまとめることをいいます。本システムでは、3チャンネル以上のマルチチャンネル音声を、ステレオ2チャンネル音声に変換するときにダミックスを行います。

ディスクメニュー
DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ビットレート
デジタルデータの転送速度のことです。一般的に、この値が大きいほど画質や音質は良くなります。

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズが開発したデジタルマルチチャンネルフォーマットで、DVDビデオで利用されています。

は〜わ

パレンタルロック(視聴制限)
映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか(たとえば教育上好ましくないシーンなど)を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

プログレッシブスキャン(順次走査)
すべてのフレーム情報を1つのフィールドで映し出します。したがって映像情報が従来方式に比べて倍になり、チラツキの少ない高密度の画像になります。

マルチアングル(アングル)
一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル
DVDビデオやDVDオーディオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

リージョンコード(再生可能地域番号)
DVDビデオの再生可能地域を限定するコードです。DVDビデオとDVDプレーヤーの両方のリージョンコードが一致しないと再生できません。

両面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス
4:3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。
画面が郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

別売りのオプション品

- 光デジタルケーブル : XN-110SA
- オーディオコード（RCAピンプラグコード） : CN-510E
- ビデオコード（映像接続用コード） : VX-110E
- Sビデオコード : VC-S110E
- D端子コード : VX-DS210（Dプラグ～ピンプラグ×3）
  : VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
（品番は変更されることがあります）

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
39 ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120－2828－17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0704TMMMDWJEM